長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第１９集

# 長崎県埋蔵文化財調査年報２４

［平成２７年度調査分］

２０１７

長崎県教育委員会

# はじめに

長崎県には先人たちが残した約3,800箇所の遺跡（埋蔵文化財）があります。こうした埋蔵文化財は地域の歴史を物語り、地域づくりや人づくりに活用できる国民共有の財産です。私たちはこれらの先人から受け継いだ貴重な文化財を適切に保存・活用し、後世の人々に伝えていく責務があります。

長崎県教育委員会では、国・県の公共事業に伴う開発が行われる際には事前に予備調査及び開発部局との協議を行って埋蔵文化財の保護を図り、その結果事業による破壊が避けられない場合は記録保存のための発掘調査を実施しています。平成27年度は、九州新幹線西九州ルート建設に伴う竹松遺跡の調査、河川改良事業に伴う井樋堤塘跡の調査を行いました。また長崎県埋蔵文化財センターでは、遺跡の保存や全容解明のための範囲確認調査も「原の辻遺跡」、「鷹島海底遺跡」で継続的に実施しています。

本書は、平成27年度に長崎県教育委員会が行った全ての発掘調査の概要、長崎県埋蔵文化財センターが行った調査研究や遺物の保存処理、展示、普及啓発などの事業概要について掲載しています。本書が県民の皆様の地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いです。

平成29年3月

長崎県教育委員会教育長

池　松　誠　二

## 例　　言

1　本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が平成 27 年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。

2　調査概要の遺跡位置図は国土地理院発行の地図（１／25,000）を使用している。

3　各遺跡の調査担当者と調査概要の執筆者は文末に記している。

4　本書の編集は長崎県埋蔵文化財センターが行った。

## 本　文　目　次


１．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

（１）県が実施した公共工事に伴う発掘調査の現状　・・・１

（２）本県の埋蔵文化財保存活用事業　・・・２

（３）長崎県埋蔵文化財センターの事業

①調査研究事業　・・・４

②保存処理事業　・・・４

③教育普及事業　・・・６

④東アジア考古学研究事業　・・・９

２．平成 27 年度 県内市町発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧　・・・１２

３．平成 27 年度 県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧　・・・１２

４．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

（１）事業別発掘調査届出件数の推移　・・・１３

（２）県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移　・・・１３

５．平成 27 年度における発掘調査の履歴　・・・１４

６．平成 27 年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要　【　】内は長崎県遺跡調査番号

（１）下羽付遺跡（本調査）【２０１５０８】　・・・１６

（２）鷹島海底遺跡（分布調査）【２０１５０９】　・・・１７

（３）諫早家御屋敷跡（範囲確認）【２０１５１０】　・・・１８

（４）諫早農業高校遺跡（範囲確認）【２０１５１２】　・・・１９

（５）原の辻遺跡（範囲確認）【２０１５１３】　・・・２０

（６）井樋堤塘跡（本調査）【２０１５１４】　・・・２１

（７）諫早家御屋敷跡（本調査）【２０１５１８】　・・・２２

（８）竹松遺跡　・・・２３

（本調査）【２０１５０１】　・・・２４

（本調査）【２０１５０２】　・・・２５

（範囲確認）【２０１５０３】　・・・２６

（本調査）【２０１５０４】　・・・２７

（本調査）【２０１５０６】　・・・２８

（試掘・範囲確認）【２０１５１６】　・・・２９

（９）長崎市東町 56k 地点（試掘）【２０１５０５】　・・・３０
（１０）黒丸遺跡（本調査）【２０１５０７】　・・・３１
（１１）（仮称）平山遺跡（試掘）【２０１５１１】　・・・３２
（１２）三城城下跡（試掘・範囲確認）【２０１５１５】　・・・３３
（１３）上三反田遺跡（本調査）【２０１５１７】　・・・３４
（１４）（仮称）平山遺跡対岸（試掘）【２０１５１９】　・・・３５

（報告書抄録）

# １．長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

## （１）県が実施した公共工事に伴う発掘調査の現状

本県では九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設工事に伴った発掘調査が本格的に実施されており、平成 21 年 10 月末と平成 25 年８月に実施した分布調査により 13 遺跡 28 ヶ所（試掘 12 ヶ所・範囲確認調査 13 ヶ所・本調査３ヶ所）で事業着手前に調査が必要であることが確認されている。また、長崎までの同時着工が平成 23 年に認可され、大村市内竹松遺跡周辺に計画されていた新幹線の保守基地が車両基地に格上げされたため、建設予定面積が約 11 万㎡となり、発掘調査の規模がさらに増大した。調査は用地買収の進捗に合わせて着手しており、平成 27 年度までに試掘･範囲確認調査、平成 28 年度までに本調査を完了する予定で進めてきた。

平成 27 年度の調査としては、大村市竹松遺跡において車両基地の３調査区、約 9,380 ㎡の本調査が実施されている。主な遺構としては、掘立柱建物跡が８棟、竪穴建物跡 13 棟、甕棺墓４基、土坑 14 基、堤防などの砂防施設と推測される石垣及び石列遺構などが検出されており、弥生時代から中世まで連綿と集落や墓地、水田などが形成されていたことがわかる。また遺物としては、縄文時代から古代までの土器や石器、古代から近世までの陶磁器や石製品、金属製品、ガラス製品等が出土している。特出する遺物として金属製の権衡（けんこう）が古代の土坑内から出土した。全国でも類例が少なく、ほとんどが国衙跡や郡衙跡から出土していることから、これまでの古代の遺物も含め、近隣に官衙が存在するという可能性を示唆している。

新幹線車両基地の東側の位置に計画されている都市計画道路の建設においても、竹松遺跡の調査が約 5,500 ㎡で実施された。郡川に近接する微丘陵に立地するＢ区では、約 340 基の柱穴が確認され、総柱建物３棟、側柱建物４棟、柵列１条が推定されている。柱穴内からは土師器の坏や皿が出土しており、11 世紀後半の時期と判断されることから、平安時代後期の有力者の倉庫群があったことが推測されている。

大村市黒丸遺跡においては、県立学校移転に伴う発掘調査が約 1,800 ㎡の範囲で実施され、竪穴建物や埋甕、集石、配石など縄文時代晩期から古墳時代までの遺構や遺物が出土している。

諫早市井樋堤塘跡では、河川改良事業に伴う発掘調査が約 3,300 ㎡の範囲で実施され、江戸時代中期ごろに築かれた南堤と北堤からなる二重構造の堤防であることが確認された。

その他、佐世保市世知原町下羽付遺跡、諫早市上三反田遺跡、諫早市諫早家御屋敷跡で本調査を実施した。

大村市竹松遺跡（都市計画道）遺構検出状況

諫早市井樋堤塘跡遺構検出状況

## （２）本県の埋蔵文化財保存活用事業　～明日につなぐ埋蔵文化財人づくり事業～

○開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修

目　的　(1) 開発部局担当者に文化財に対する理解を深めてもらい、その取り扱いについて具体的な情報を提供することにより、円滑な文化財行政を推進する。

(2) 文化財主管課担当者に基礎的な知識を習得する場を提供し、文化財の保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどの理解を深めさせ資質の向上を図る。

期　日　平成 27 年５月 22 日（金）

会　場　長崎歴史文化博物館１階ホール

参加者　・県及び市町開発部局担当者

・県及び市町文化財担当者（実務経験３年未満を主体）　計　81 名

内　容　・埋蔵文化財諸届に関する確認事項

・埋蔵文化財関係補助金制度の説明

・無届工事の事例について

・専門（技術）研修について

**開発部局・文化財保護部局担当者文化財基礎研修**

○長崎県市町文化財保護行政主管課長会議・担当者会議

目　的　市町文化財保護行政主管課の課長及び担当者に、文化財保護に関する新たな情報や専門的な知識を習得する場を提供し、統一的なテーマを中心に講義・事例発表・討議などを行うことにより専門的な資質を向上させ、本県文化財保護行政の適切かつ円滑な推進を図る。

期　日　平成 27 年 10 月 16 日（金）

会　場　長崎県農協会館

参加者　県及び市町文化財行政担当者　　計　42 名

内　容　・埋蔵文化財発掘調査基準（積算基準）の改訂

・長崎県「発掘調査への民間調査関係組織導入にあたっての方針（案）について

・現状変更に対する適切な対応について

・文化財関係補助金について

・文化財保護ネットワークについて

・その他、市町からの協議・照会事項について

○埋蔵文化財担当者専門技術研修

目　的　長崎県内の遺跡から出土した資料の恒久的な保存と活用を行うための基礎的な考え方および技術を習得する。

日　時　平成 27 年 12 月３日（木）・４日（金）

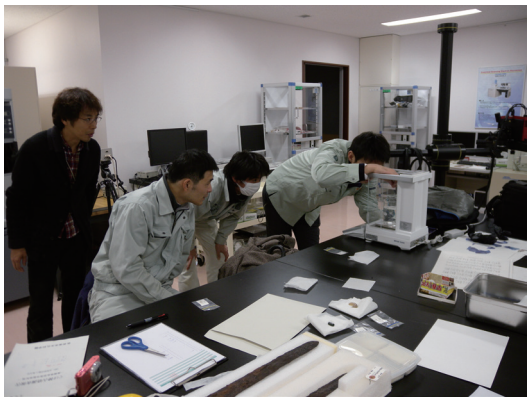
会　場　長崎県埋蔵文化財センターおよび原の辻遺跡発掘現場

参加者　県内市町埋蔵文化財担当者　６名

内　容　・全国遺跡報告総覧の活用
・デジタルトレースの導入と活用
・保存処理実習
・原の辻遺跡発掘現場見学

全国遺跡報告総覧の活用

デジタルトレースの導入と活用


保存処理実習

原の辻遺跡発掘現場見学

## （３）長崎県埋蔵文化財センターの事業

### ①調査研究事業

平成 27 年度の原の辻遺跡の範囲確認調査は、低地部に立ち返り丘陵北側の芦辺高原地区において「弥生時代の旧河川」の確認を目的に平成 27 年 11 月２日～平成 27 年 12 月 28 日にかけて実施した。調査の結果、１区･２区で近代河川を検出した。３区で検出された河川跡は弥生時代の可能性が高い。河床面からは動物骨や腕輪状木製品・タモなどの木製品や大量の弥生土器が出土した。

鷹島海底遺跡の分布調査は、平成 27 年８月１日～８月 12 日、前年と同じ床浪港東側 200m × 50m（1 万㎡）の範囲で遺物分布の状況を目視調査した。その結果磚や陶磁器類のほか、石弾５点を含む計 106 点の元寇関連遺物を確認した。遺物は写真撮影、ＧＰＳによる位置情報を記録した。調査中に確認した遺物のうち、磚 2 点、陶磁器 2 点、石弾 2 点の計 6 点を取り上げ塩抜き等保存処理を行った後、東アジア国際シンポジウム等で展示するなど活用している。

国・県の開発に伴う調査としては、平成 27 年度江ノ浦川河川改良事業に伴い諫早市飯盛町の井樋堤塘跡の本調査を実施した。調査に要した期間は平成 27 年 11 月 16 日～平成 28 年２月 10 日、調査面積は 3,300 ㎡に及んだ。その結果堤塘の構造が明らかになった。

県立諫早高校図書館棟増築改修工事計画に伴って諫早家御屋敷跡の調査を、平成 27 年 8 月 24 日～8 月 28 日にかけて範囲確認調査、平成 28 年 2 月 22 日～ 3 月 18 日に本調査を実施した。その結果、２段の礎石を検出し、屋敷建て替えの時期差が確認できた。

平成 28 年度諫早農業高校野菜温室改築工事（予定）に係る諫早農業高校遺跡の範囲確認調査が平成 27 年 10 月 26 日～ 10 月 30 日に実施された。その結果、石器・土器等が出土する弥生時代中期、中世の遺物包含層を確認した。

市町支援の調査は１件で、五島市田ノ浦遺跡の立会調査を行ったが遺物等は出土しなかった。

### ②保存処理事業

県保有資料の保存処理を、国庫補助を活用して行っており、平成 27 年度は木製品 34 点、金属製品 232 点、動物遺体（骨）２点の計 268 点の保存処理を行った（表１）。

木製品の保存処理はＰＥＧ含浸処理法を中心に真空凍結乾燥法、トレハロース含浸処理法等を行っている。平成 26 年度にＰＥＧ（ポリ・エチレン・グリコール）を 50%水溶液まで含浸させた大型木製品は、平成 27 年度に真空凍結乾燥処理を行った。

大型木製品の真空凍結乾燥処理

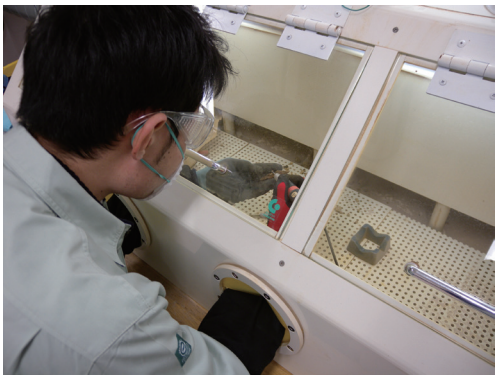

鉄製品の錆取り作業

表１　平成 27 年度国庫補助事業による保存処理一覧

◆木製品：34点

| 遺　跡　名 | 所在地 | 処理点数 | 処理方法 | 時代 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 長崎奉行所跡 | 長崎市 | 5点 | 真空凍結乾燥処理 | 江戸時代 | 平成 26 年度に PEG 含浸処理 |
| 出島和蘭商館跡 | 長崎市 | 10 点 | 真空凍結乾燥処理 | 江戸時代 | 平成 26 年度に PEG 含浸処理 |
| 大堂遺跡 | 大村市 | 5点 | トレハロース処理 | 弥生～古墳 | |
| 竹松遺跡 | 大村市 | 4点 | トレハロース処理 | 弥生～古墳 | |
| 長崎奉行所跡 | 長崎市 | 10 点 | アクリル樹脂強化 | 江戸時代 | |

◆金属製品：232点

| 遺　跡　名 | 所在地 | 処理点数 | 処理内容 | 時代 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 小手田遺跡 | 平戸市 | 2点 | 透過エックス線撮影<br>↓<br>錆取り作業<br>↓<br>脱塩・BTA 処理<br>↓<br>樹脂含浸強化 | 江戸時代 | |
| 長崎西役所跡 | 長崎市 | 4点 | | 江戸時代 | |
| 小路口遺跡 | 大村市 | 5点 | | 弥生～近世 | |
| 竹松遺跡 | 大村市 | 221 点 | | 弥生～近世 | |

◆骨：2点

| 遺　跡　名 | 所在地 | 処理点数 | 処理内容 | 時代 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 長崎西役所跡 | 長崎市 | 2点 | バインダー処理 | 江戸時代 | |

合計：268 点

金属製品は主に鉄製品と銅製品に大別されるが、いずれも透過Ｘ線撮影等事前調査を実施したのち、錆取り作業⇒脱塩処理（銅製品はＢＴＡ処理）⇒樹脂強化含浸処理⇒接合・修復を実施した。

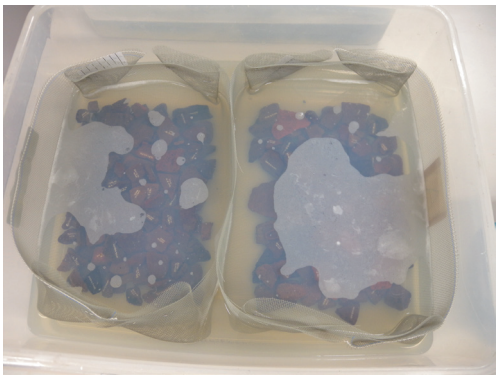
骨は顕微鏡下でメスなどを用いて表面のクリーニングを行った後、超音波洗浄機を用いて空隙に残る土砂を取り除く処理を行った後、アクリル樹脂に浸漬含浸し強化した。

また県内市町が保有する資料に関しても所定の申請を行えば保存処理施設の利用を許可しており、平成 27 年度は５市からの利用があり計 839 点の保存処理を行った（表２）。

表２　県内市町保存処理点数一覧

| 市町名 | 利用機関 | 種別 | 点数 |
|---|---|---|---|
| 佐世保市 | 佐世保市教育委員会 | 金属製品 | 57 |
| 大村市 | 大村市教育委員会 | 金属製品 | 2 |
| 壱岐市 | 壱岐市文化財課 | 木製品 | 3 |
| 壱岐市 | 壱岐市文化財課 | 金属製品 | 37 |
| 壱岐市 | 壱岐市文化財課 | 骨角製品 | 1 |
| 壱岐市 | 壱岐市文化財課 | 土器 | 1 |
| 壱岐市 | 九州大学 | 金属製品 | 12 |
| 西海市 | 西海市教育委員会 | 金属製品 | 3 |
| 雲仙市 | 雲仙市教育委員会 | 土器 | 723 |

計：839 点



土器の樹脂強化含浸作業（雲仙市）

出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も保有し、金属製品の材質分析や構造調査も行っている。外部利用も受け入れており、平成 27 年度は７機関が、実体顕微鏡撮影装置、透過Ｘ線撮影装置、蛍光Ｘ線分析装置、三次元計測器などを利用した（表３）。

**表３　平成２７年度精密分析機器外部利用一覧**

| 利用時期 | 利用者 | 利用内容 | 利用機器 |
|---|---|---|---|
| 2015 年 7 月 | 雲仙市教育委員会 | 接合石器の三次元計測及び 3D ﾚﾌﾟﾘｶ作成 | 三次元計測機、3D ﾌﾟﾘﾝﾀｰ |
| 2015 年 9 月 | 九州歴史資料館 | 黒曜石の分析 | 蛍光 X 線分析装置 |
| 2015 年 9 月 | 九州大学 | 妙泉寺古墳出土金属製品の調査 | 透過Ｘ線撮影装置 |
| 2015 年 10 月 | 台湾国立自然科学博物館 | 圧痕土器の調査 | 実体顕微鏡 |
| 2015 年 10 月 | 松浦市教育委員会 | 鷹島海底遺跡出土金属製品の調査 | 透過Ｘ線撮影装置、蛍光Ｘ線分析装置 |
| 2015 年 11 月 | 長崎市生涯学習課 | 恐竜化石の三次元計測及び 3D ﾚﾌﾟﾘｶ作成 | 三次元計測機、3D ﾌﾟﾘﾝﾀｰ |
| 2015 年 11 月 | 雲仙市教育委員会 | 黒曜石の分析 | 蛍光 X 線分析装置 |
| 2015 年 11 月 | 雲仙市教育委員会 | 接合石器の三次元計測及び 3D ﾚﾌﾟﾘｶ作成 | 三次元計測機、3D ﾌﾟﾘﾝﾀｰ |
| 2015 年 12 月 | 雲仙市教育委員会 | 黒曜石の分析 | 蛍光 X 線分析装置 |
| 2015 年 12 月 | 佐世保市教育委員会 | テボ神古墳出土銅製品の成分分析 | 蛍光 X 線分析装置 |
| 2016 年 2 月 | 雲仙市教育委員会 | 黒曜石の分析 | 蛍光 X 線分析装置 |
| 2016 年 2 月 | 佐世保市教育委員会 | 早岐瀬戸遺跡出土磁器の成分分析 | 蛍光 X 線分析装置 |
| 2016 年 3 月 | 長崎市生涯学習課 | 恐竜化石の三次元計測及び 3D ﾚﾌﾟﾘｶ作成 | 三次元計測機、3D ﾌﾟﾘﾝﾀｰ |
| 2016 年 3 月 | 佐世保市教育委員会 | 鬼塚古墳出土金属製品の調査 | 透過Ｘ線撮影装置 |

### ③教育普及事業

**＜オープン収蔵展示＞**

調査研究の成果を紹介するため、併設する壱岐市立一支国博物館のオープン収蔵庫（高さ５ｍのガラス張りで、キッズこうこがく研究所および博物館２階より内部を見ることができる収蔵庫）を活用して、遺物の展示を行っている。

平成 27 年度は以下の３つのテーマで遺物展示を行った。

**『お酒の器展』展示風景**

| テーマ | 主な展示品 | 期間 |
|---|---|---|
| 『世界と長崎の貿易品展』 | VOC 銘入染付皿（長崎奉行所跡）、ペトゥルス・レグゥー窯製プリントウェア［Aurorea1855-70］（万才町遺跡）、レーマー杯（長崎奉行所跡）、青花皿（長崎奉行所跡）、元豊通寶［長崎貿易銭］（栄町遺跡）、華南三彩盤（万才町遺跡）、鉄絵印花文碗（炉粕町遺跡）、象嵌青磁（今屋敷家老屋敷跡）、亀山焼筆立（万才町遺跡） | 平成 27 年 6 月 2 日<br>～<br>平成 27 年 10 月 4 日 |
| 『お酒の器展』 | 袋状口縁壺（原の辻遺跡）、提瓶（壱岐市）、瓻（壱岐市）、俵形瓶（椿遺跡）、土師器小杯（諫早家御屋敷跡）、瓶子形御神酒徳利（万才町遺跡）、ワインボトル（長崎奉行所跡）、硬質白磁俵壺（今屋敷家老屋敷跡）、型吹きガラス盃、漆塗杯（炉粕町遺跡）、長与三彩小杯（玖島城跡）、壱岐市内焼酎蔵元の民具 | 平成 27 年 10 月 6 日<br>～<br>平成 28 年 1 月 31 日 |
| 『保存処理成果展』 | 鉄鍋（和蘭商館跡）、蹄鉄（和蘭商館跡）、銅鏡（掛木古墳）、銅矛袋部（ハロウ遺跡）、銅剣（諫早農業高校遺跡）、耳環（竹松遺跡）、湖州鏡（竹松遺跡）、槽（原の辻遺跡）柄付枡（玖島城跡）、木簡（玖島城跡）、下駄（長崎奉行所跡）、ハンディ蛍光 X 線分析装置、銅剣欠損部レプリカ（３D プリンター）、保存処理道具等 | 平成 28 年 2 月 2 日<br>～<br>平成 28 年 6 月 5 日 |

＜情報誌＞

子ども向け情報誌として「キッズこうこがく」をB1ポスター構成で発刊した。「キッズこうこがく」は県内の遺跡の紹介や、日本遺産・発掘調査などのトピックスをわかりやすく解説した記事を掲載しており、県内学校や教育機関などに配布し、ホームページにも掲載している。

キッズこうこがく第11号

＜ホームページおよびFacebookの公開更新＞

センターホームページ

ホームページ（http://www.nagasaki-maibun.jp/）には『施設案内』のほか、近年の発掘成果を紹介した『発掘情報』、オープン収蔵展示や教育支援事業などを紹介する『インフォメーション』、刊行物やキッズこうこがく研究所のイベントなどを紹介する『イベント情報』、収蔵している出土品や精密分析機器の『施設利用』に関する申請書などを掲載している。また平成26年9月からはFacebookページ（http://fb.com/1461241530809034）を開設し、親しみやすい情報の発信に取り組んでいる。

センターFacebookページ

＜体験学習＞

『精密分析機器で調べてみよう』と題し、主に小学生を対象とした体験学習を年間10回行っている。子どもたちに分かりやすく、また興味を示すようなアイデアを盛り込み、各機器の特性を活かした工夫をこらしている。身近なものを、精密機器を用いて観察、分析することで得られる情報から、埋蔵文化財センターの仕事内容や成果の普及活動に努めている。平成27年度は10回の開催で計76名の参加があった。

第58回『精密分析機器で調べてみよう』

＜バックヤードツアー＞

埋蔵文化財センターに併設されている一支国博物館では、毎月第3土曜日にバックヤードツアーをセンターと共催で実施している。埋蔵文化財センターの保存処理施設や出土品収蔵庫等を見学するツアーで、博物館学芸員とセンター職員とで対応している。平成27年度は12回の開催で計108名の参加があった。

＜一支国博物館6周年記念イベント＞

平成28年3月14日にセンターと一支国博物館はオープン6周年を迎え、同博物館内で記念イベントが開催（3月13日実施）されるのに伴い、センターでは『のぞいてみよう！ミクロの世界』と題し、デジタル顕微鏡を用いて身近なものを観察するイベントを実施した。オープン収蔵庫内で午前11時から2時間実施し、計57名の参加があった。

『のぞいてみよう！ミクロの世界』

＜資料貸出・閲覧・掲載許可＞

収蔵する出土品の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を受け、使用目的等適当であれば許可している。平成 27 年度は 20 件の申請があり 2901 点に関して対応した。

| 平成 27 年度実績 | 件数 | 点数 |
|---|---|---|
| 考古資料等貸出 | 7 | 41 |
| 考古資料閲覧 | 3 | 2815 |
| 写真等掲載許可 | 10 | 45 |
| 計 | 20 | 2901 |

＜長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援＞

本センターの特色ある取組の一つとして、壱岐高校の東アジア歴史・中国語コース支援をあげることができる。この取組では、センター職員がコースの授業を担当したり体験入学等を支援したりしている。平成 27 年度は、2･3 年生の歴史学専攻の生徒がいなかったため専門の授業は実施しなかったが、1 年生の「歴史学入門」を 8 回実施した。授業形態は、一般的な講義形式のものから原の辻遺跡の発掘体験、島内巡検など多様な内容となっている。また、2 回行われた体験入学においては、参加した保護者や中学生に対して授業内容の紹介やセンター施設の見学等を実施した。

長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援事業一覧

学校設定科目の授業に関すること

| | | | 1 年歴史学入門 | |
|---|---|---|---|---|
| 月 | 日 | 曜 | 授業名 | 担当者 |
| 5 | 27 | 水 | 博物館・センター見学 | 片多・楠本 |
| 6 | 24 | 水 | 歴史学入門 | 古澤・楠本 |
| 7 | 1 | 水 | 東アジアの地誌 ※2 年も | 古澤・楠本 |
| | 8 | 水 | 東アジアの歴史 ※2 年も | 古澤・楠本 |
| 11 | 4 | 水 | 原の辻遺跡特論 | 川道・楠本 |
| | 11 | 水 | 原の辻発掘体験① | 古澤・楠本 |
| | 18 | 水 | 原の辻発掘体験② | 古澤・楠本 |
| 1 | 20 | 水 | 壱岐の古墳 | 古澤・楠本 |

体験入学に関すること

| 月 | 日 | 曜 | 行事名 | 担当者 | 行事内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 7 | 火 | 第 1 回連絡協議会 | 所長・川道・楠本 | 自己紹介、新年度のコース運営等の協議・調整 |
| 8 | 29 | 土 | 第 1 回コース体験入学 | 楠本 | 埋文センター案内 |
| 10 | 31 | 土 | 第 2 回コース体験入学 | 楠本 | 埋文センター案内 |
| 2 | 25 | 月 | コース 3 年生表敬訪問 | 所長・川道・古澤・楠本 | 所長・授業に関わった職員との懇談会 |
| 3 | 3 | 木 | 担当職員事前打ち合わせ | 楠本 | 第 2 回協議会前の事前打ち合わせ |
| | 15 | 火 | 第 2 回連絡協議会 | 所長・川道・楠本 | 年度末反省及び次年度計画の協議・調整 |

原の辻遺跡の発掘実習

体験入学の案内

＜学校教育支援「埋文ＭＡＩＢＵＮ学びのサポート」＞

本センターは、「埋文ＭＡＩＢＵＮ学びのサポート」という学校教育支援を行っている。これは、センター職員の高い専門性や、石器・土器など実際の遺物、さまざまな機器を活用したセンターでの学習や出前授業等を通して、考古学への児童生徒の興味・関心を高めるほか、幅広い知識や技能の習得をサポートすることを目的として実施している。平成 27 年度は、15 件 605 人の利用があった。

| 月 | 日 | 曜 | 学校名 | 内容 |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 4 | 土 | 壱岐高・壱岐商高・虹の原特支職員研修 | センターと一支国博物館の見学 |
| 5 | 1 | 金 | 壱岐市立筒城小学校５・６年生 | センターと一支国博物館の見学 |
| 6 | 6 | 土 | 壱岐市立田河小学校親子レク | センターの見学 |
| | 20 | 土 | 壱岐市立箱崎小学校親子レク | センターの見学 |
| | 23 | 火 | 壱岐市立霞翠小学校６年生 | センターの見学 |
| | 25 | 木 | 壱岐市立志原小学校６年生 | センターの見学 |
| 6～7 | 25～2 | 木～木 | 長与町立長与第二中学校１・３年生 | 「考古学ＢＯＸ」の利用 |
| 7 | 1 | 水 | 壱岐市立瀬戸小学校６年生 | センターの見学 |
| | 22 | 水 | 長崎県立佐世保北中学校１年生 | センターの見学 |
| 10 | 22 | 木 | 壱岐市立郷ノ浦中学校３年生 | 職場体験学習 |
| | 29 | 木 | 壱岐市立勝本中学校３年生 | 職場体験学習 |
| 11 | 6 | 金 | 壱岐市立三島小学校 | 原の辻遺跡発掘作業体験 |
| | 10 | 火 | 長崎大学教育学部学生 | センターと一支国博物館の見学 |
| 1 | 29 | 金 | 壱岐市立田河小学校６年生 | センターの見学 |
| 2 | 18 | 木 | 壱岐市立石田中学校１年生 | センターの見学 |

センターの見学

職場体験学習

④東アジア考古学研究事業

＜東アジア国際シンポジウムの開催＞

東アジア考古学研究室は本県が古代から東アジア交流の要衝として独特の文化を育んできた歴史的

経緯を踏まえ、東アジア的視点に立った考古学研究を推進しその成果を発表している。平成 27 年度は「ロード・オブ・ザ・コインー弥生時代中国貨幣からみる交流ー」をテーマとしてシンポジウムを開催した。

○主　催　長崎県埋蔵文化財センター

○共　催　長崎歴史文化博物館、壱岐市立一支国博物館

○後　援　長崎市、壱岐市、長崎市教育委員会、壱岐市教育委員会、魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加教育委員会、朝日新聞社、長崎新聞社、西日本新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、壱岐新聞社、壱岐新報社、壱岐日々新聞社、ＮＨＫ長崎放送局、ＫＴＮテレビ長崎、ＮＢＣ長崎放送、ＮＣＣ長崎文化放送、ＮＩＢ長崎国際テレビ、壱岐ビジョン

○日　時　長崎会場：平成 27 年 10 月 12 日（月・祝）14:00 ～ 16:30

壱岐会場：平成 27 年 11 月 14 日（土）14:00 ～ 15:30

関連講座：平成 27 年 10 月 25 日（日）14:00 ～ 15:30

○場　所　長崎会場：長崎歴史文化博物館ホール

壱岐会場・関連講座：壱岐市立一支国博物館多目的ホール

○参加者　354 名（長崎 164 名、壱岐 109 名、関連講座 81 名）

○内　容　長崎会場：

第Ⅰ部　長崎県の弥生時代遺跡出土中国貨幣

長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室　　古澤　義久

第Ⅱ部　東北アジアにおける中国貨幣

韓国（財）嶺南文化財研究院　　権　旭宅

（通訳）長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室　古澤　義久

第Ⅲ部　パネルディスカッション

～弥生時代にはすでに中国貨幣が流通していた！？～

コーディネーター　　福岡大学人文学部　　武末　純一

壱岐会場：

第Ⅰ部　長崎県と東北アジアの中国貨幣

長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室　　古澤　義久

【長崎会場】古澤　義久主任文化財保護主事

【長崎会場】権　旭宅先生

第Ⅱ部　原の辻遺跡における交易

長崎県教育庁新幹線文化財調査事務所　　安楽　勉

※関連講座：『鷹島海底沈没船はどこの船か？（古銭からの推定）』

長崎県埋蔵文化財センター東アジア考古学研究室　　古澤　義久

【長崎会場】武末　純一先生

【長崎会場】パネルディスカッションの様子

【壱岐会場】安楽　勉先生

**＜長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第 6 号の刊行＞**

本センターの研究紀要は、開所以来毎年刊行を重ねている。今回第 6 号は、本県埋蔵文化財担当職員による研究成果の発表の場という従来の目的に加え、東アジア国際シンポジウムの成果還元という新たな展開をみた。第 6 号では次の 7 本の論考を掲載した。

古澤　義久　「平成 26 年度東アジア国際シンポジウム『支石墓の謎　墓地にみる日韓交流』の成果」
中村　大介　「支石墓の多様性と交流」
尹　　昊弼　「韓国青銅器時代支石墓の葬送儀礼」
古澤　義久　「長崎県立美術博物館旧蔵釜山『牧ノ島貝塚』出土新石器時代土器」
辻田淳一郎・片多　雅樹　「長崎県壱岐市・掛木古墳出土の鏡について」
堀内　和宏　「肥前国彼杵郡・高来郡の歴史地理的特質と古代地方社会の労働力動員について
　　～大村市竹松遺跡の調査成果を踏まえて～」
杉原　敦史　「滑石製石鍋の流通について～中世における長崎県本土部の港津の機能から～」

## ２．平成 27 年度　県内市町村発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

○長崎市被爆継承課

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 長崎原爆遺跡調査報告書（Ⅰ） | 長崎原爆遺跡 | | |

○佐世保市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 史跡福井洞窟発掘調査報告書 | 福井洞窟 | 佐世保市文化財調査報告書 | 14 |

○島原市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 森岳城跡石垣調査報告書 | 森岳城跡 | 島原市文化財調査報告書 | 16 |

○諫早市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 諫早市文化財調査年報Ⅱ | 宮園城跡、椿川古墳群、小栗Ｃ地点遺跡、唐比塔ノ本遺跡 | 諫早市文化財調査報告書 | 26 |

○大村市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 石走遺跡発掘調査報告書 | 石走遺跡 | 大村市文化財調査報告書 | 39 |
| 2016 | 富の原遺跡 | 富の原遺跡 | 大村市文化財調査報告書 | 40 |

○平戸市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 市内遺跡発掘調査報告書ＸＶ | 吹上駕籠立場遺跡、里田原遺跡、下中野第１遺跡、根獅子遺跡、横島和蘭商館付属施設跡 | 平戸市の文化財 | 71 |

○松浦市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 松浦市鷹島海底遺跡 | 鷹島海底遺跡 | 松浦市文化財調査報告書 | 7 |

○対馬市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 今屋敷家老屋敷跡 | 今屋敷家老屋敷跡 | 対馬市文化財調査報告書 | 9 |
| 2016 | 旧金石城庭園 | 旧金石城庭園 | 対馬市文化財調査報告書 | 10 |

○壱岐市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 大久保遺跡・市史跡カラカミ遺跡４次・国史跡勝本城跡 | 大久保遺跡、カラカミ遺跡（Ⅶ区・Ⅷ区）、勝本城跡 | 壱岐市文化財調査報告書 | 26 |

○雲仙市教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 真正寺条里跡Ⅱ | 真正寺条里跡 | 雲仙市文化財調査報告書 | 14 |

## ３．平成 27 年度　県教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書一覧

○長崎県教育委員会

| 発行年 | 報告書名 | 収録遺跡 | シリーズ名 | 集番号 |
|---|---|---|---|---|
| 2016 | 長崎県埋蔵文化財調査年報 23（平成 26 年度調査分） | 鷹島海底遺跡、原の辻遺跡、小手田遺跡、下羽付遺跡、竹松遺跡ほか | 長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 | 15 |
| 2016 | 小手田遺跡 | 小手田遺跡 | 長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 | 16 |
| 2016 | 下羽付遺跡 | 下羽付遺跡 | 長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 | 17 |
| 2016 | 原の辻遺跡　総集編Ⅱ | 原の辻遺跡 | 長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 | 18 |

## ４．事業別発掘調査届出件数及び県市町別埋蔵文化財職員数の推移

### （１）事業別発掘調査届出件数の推移

| 調査の目的・契機 | 平成 24 年度 | | 平成 25 年度 | | 平成 26 年度 | | 平成 27 年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a 道　路 | 8 | (6) | 4 | (3) | 12 | (8) | 6 | (3) |
| b 鉄　道 | 5 | (2) | 13 | (8) | 15 | (10) | 9 | (5) |
| c 空　港 | | | | | | | | |
| d 河　川 | 1 | (1) | 3 | | 2 | | 4 | |
| e 港　湾 | | | | | | | | |
| f ダ　ム | | | | | | | | |
| g 学校建設 | | | 1 | (1) | 1 | (1) | 5 | (2) |
| h 住　宅 | 9 | (7) | 11 | (9) | 5 | (4) | 10 | (8) |
| i 個人住宅 | 10 | (9) | 9 | (9) | 19 | (19) | 15 | (15) |
| j 工　場 | 1 | | | | 1 | (1) | | |
| k 店　舗 | 1 | (1) | 7 | (7) | 3 | (1) | 1 | (1) |
| l 個人住宅兼工場または店舗 | | | 1 | (1) | 2 | (2) | 1 | (1) |
| m その他の建物 | 11 | (10) | 17 | (12) | 10 | (10) | 13 | (11) |
| n 宅地造成 | 7 | (6) | 10 | (10) | 10 | (10) | 10 | (10) |
| o 土地区画整理 | | | | | | | | |
| p 公園造成 | 1 | | 1 | (1) | 1 | | 3 | (1) |
| q ゴルフ場 | | | | | | | | |
| r 観光開発 | | | | | 1 | | | |
| s ガス・電気・水道等 | 2 | (2) | 4 | (3) | | | 2 | (1) |
| t 農業基盤整備事業 | | | 6 | (3) | 15 | (10) | 15 | (13) |
| u その他の農業関係事業 | | | | | | | 2 | (2) |
| v 土砂採取 | 1 | (1) | | | 3 | (1) | | |
| w その他の開発 | 11 | (8) | 12 | (12) | 13 | (13) | 21 | (18) |
| x 自然崩壊 | 1 | | | | | | | |
| y 保存目的の範囲内容確認調査 | 13 | (1) | 11 | (1) | 10 | (10) | 9 | (9) |
| z 学術調査 | 1 | | 1 | | 1 | (1) | 4 | (2) |
| **発掘調査届出件数合計** | 83 | | 111 | | 124 | | 130 | |

※（　）数字は届出件数のうち「試掘・範囲確認調査」の報告数

### （２）県及び市町埋蔵文化財担当者職員数の推移　※（　）は嘱託職員で外数

| 区 分 | 平成 23 年 | 平成 24 年 | 平成 25 年 | 平成 26 年 | 平成 27 年 |
|---|---|---|---|---|---|
| 県 | 13(25) | 14(22) | 16(32) | 17(30) | 16(17) |
| 市町 | 39(13) | 36(14) | 38(14) | 40(11) | 36(13) |
| **総　計** | 90 | 86 | 100 | 98 | 82 |

# ５．平成 27 年度長崎県における発掘調査の履歴

| 調査番号 | 略号 | 遺跡名 | 調査開始日 | 調査終了日 | 調査原因 | 記号 | 調査種別 | 調査面積（㎡） | 調査主体 | 遺跡所在地 | 届出通知 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 過年度 | | 森岳城跡 | 2014/2/20 | 2014/2/21 | 個人住宅 | i | 範確 | 4.0 | 島原市 | 島原市 | — |
| 過年度 | | 森岳城跡 | 2014/10/23 | 2014/10/24 | 個人住宅 | i | 範確 | 4.0 | 島原市 | 島原市 | 報告書 |
| 過年度 | | 国指定史跡出島和蘭商館商館跡 | 2014/11/20 | 2015/3/31 | 現状変更 | | 本調査 | 124.0 | 長崎市 | 長崎市 | 現状変更 |
| 過年度 | | 森岳城跡 | 2014/11/21 | 2014/11/22 | 住宅 | h | 範確 | 4.0 | 島原市 | 島原市 | 報告書 |
| 過年度 | | 森岳城跡 | 2014/11/29 | 2014/11/30 | 個人住宅 | i | 範確 | 2.0 | 島原市 | 島原市 | 報告書 |
| 過年度 | | 早岐瀬戸遺跡 | 2015/2/25 | 2015/3/26 | 宅地造成 | n | 範確 | 40.6 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式 5 号 |
| 過年度 | | 女神台場跡 | 2015/2/25 | 2015/3/30 | その他開発（売却） | w | 範確 | 8.4 | 長崎市 | 長崎市 | 様式 5 号 |
| 過年度 | | 長牟田遺跡 | 2015/2/26 | 2015/3/27 | 土地区画整理 | o | 範確 | 16.0 | 諫早市 | 諫早市 | 様式 5 号 |
| 過年度 | | 大久保遺跡 | 2015/3/19 | 2015/3/19 | 学校建設 | g | 範確 | 4.0 | 西海市 | 西海市 | 様式 5 号 |
| 過年度 | | 国東半島遺跡 | 2015/3/23 | 2015/3/23 | その他建物（防火水槽埋設） | m | 範確 | 2.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式 5 号 |
| | | 出島和蘭商館商館跡 | 2015/4/1 | 2016/3/31 | 公園造成、その他開発 | pw | 本調査 | 210.0 | 長崎市 | 長崎市 | 99 条 |
| | | 冷泉遺跡 | 2015/4/20 | 2015/4/22 | 個人住宅 | i | 試掘 | 9.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 東大窪遺跡 | 2015/4/20 | 2015/6/23 | 道路 | a | 本調査 | 358.0 | 南島原市 | 南島原市 | 99 条 |
| | | 平野遺跡 | 2015/4/22 | 2015/4/23 | 住宅 | h | 範確 | 8.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 丸尾遺跡 | 2015/4/24 | 2015/4/27 | 個人住宅 | i | 範確 | 9.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 中田遺跡（隣接地） | 2015/4/28 | 2015/4/30 | その他建物（福祉施設） | m | 範確 | 23.5 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 真正寺条里跡 | 2015/4/30 | 2015/5/13 | その他建物（通所介護施設） | m | 範確 | 15.6 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式 5 号 |
| | | 黒丸遺跡 | 2015/5/11 | 2015/5/13 | 宅地造成 | n | 範確 | 67.5 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 帯取遺跡 | 2015/5/11 | 2015/5/14 | その他開発（太陽光発電施設） | w | 範確 | 14.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 浜津遺跡 | 2015/5/13 | 2015/5/14 | 個人住宅 | i | 範確 | 3.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式 5 号 |
| | | 戸町番所跡 | 2015/5/14 | 2015/5/14 | ガス・電気・水道等 | s | 範確 | 2.2 | 長崎市 | 長崎市 | 様式 5 号 |
| | | 東原遺跡 | 2015/5/14 | 2015/5/19 | その他建物（堆肥舎建設） | m | 範確 | 6.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式 5 号 |
| | | 前原遺跡 | 2015/5/18 | 2015/10/31 | 住宅 | a | 本調査 | 454.0 | 佐世保市 | 佐世保市 | 99 条 |
| | | 黒丸遺跡 | 2015/5/19 | 2015/5/21 | 住宅 | h | 範確 | 4.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 黒丸遺跡 | 2015/5/19 | 2015/5/21 | 住宅 | h | 試掘 | 8.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 柴田遺跡（隣接地） | 2015/5/25 | 2015/5/27 | その他開発（土取り） | w | 試掘 | 12.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 古賀島 4 遺跡 | 2015/5/26 | 2015/5/27 | 宅地造成 | n | 範確 | 8.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| 201501 | TAK | 竹松遺跡（車両基地 1） | 2015/5/26 | 2016/1/20 | 鉄道 | b | 本調査 | 4400.0 | 県（新幹線） | 大村市 | 99 条 |
| 201504 | TAK | 竹松遺跡（都市計画道路） | 2015/5/28 | 2016/2/18 | 道路 | a | 本調査 | 5480.0 | 県（新幹線） | 大村市 | 99 条 |
| | | 愛津遺跡 | 2015/5/29 | 2015/8/4 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 62.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 99 条 |
| | | 火箱遺跡 | 2015/5/29 | 2015/8/4 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 62.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 99 条 |
| 201503 | TAK | 竹松遺跡（車両基地関係） | 2015/6/1 | 2015/6/16 | 鉄道 | b | 範確 | 40.0 | 県（新幹線） | 大村市 | 99 条 |
| | | 諏訪ノ上遺跡 | 2015/6/10 | 2015/8/31 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 本調査 | 773.0 | 南島原市 | 南島原市 | 99 条 |
| | | 黒丸遺跡 | 2015/6/15 | 2015/6/29 | 住宅 | h | 範確 | 96.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 早岐瀬戸遺跡 | 2015/6/15 | 2015/8/28 | その他建物（集合住宅建設） | m | 本調査 | 103.2 | 佐世保市 | 佐世保市 | 99 条 |
| 201502 | TAK | 竹松遺跡（車両基地 2） | 2015/6/15 | 2015/12/14 | 鉄道 | b | 本調査 | 2800.0 | 県（新幹線） | 県（新幹線） | 99 条 |
| | | 竹辺C遺跡 | 2015/6/17 | 2015/6/18 | その他開発（不動産売買） | w | 範確 | 4.0 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式 5 号 |
| | | 鷹島海底遺跡 | 2015/6/22 | 2015/7/1 | 学術調査 | z | 本調査 | 50.0 | 琉球大学 | 琉球大学 | 92 条 |
| | | 大似田堤遺跡 | 2015/6/29 | 2015/6/29 | その他開発 | w | 範確 | 8.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| 201505 | HRG | 長崎市東町 56km 地点遺跡（仮称） | 2015/6/29 | 2015/7/3 | 鉄道 | b | 試掘 | 4.0 | 県（新幹線） | 長崎市 | 様式 5 号 |
| 201508 | SHT | 下羽付遺跡 | 2015/6/29 | 2015/8/14 | 道路 | a | 本調査 | 742.0 | 県（埋文） | 佐世保市 | 99 条 |
| | | 早岐瀬戸遺跡 | 2015/7/2 | 2016/2/29 | ガス・電気・水道等 | s | 本調査 | 215.4 | 佐世保市 | 佐世保市 | 99 条 |
| | | 竹辺D遺跡（隣接地） | 2015/7/3 | 2015/7/3 | その他建物（集合住宅） | m | 試掘 | 270.9 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式 5 号 |
| | | 一野遺跡 | 2015/7/3 | 2015/7/8 | 店舗 | k | 範確 | 6.0 | 島原市 | 島原市 | 様式 5 号 |
| | | 黒丸遺跡 | 2015/7/6 | 2015/7/17 | 住宅 | h | 範確 | 174.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 大久保遺跡 | 2015/7/6 | 2015/8/5 | 保存目的 | y | 範確 | 16.0 | 壱岐市 | 壱岐市 | 99 条 |
| | | 古賀島 2 遺跡 | 2015/7/9 | 2015/7/9 | 住宅 | h | 試掘 | 8.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 竹辺D遺跡 | 2015/7/14 | 2015/7/15 | その他開発（財務局による不動産の調査） | w | 範確 | 6.0 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式 5 号 |
| | | 今富城跡　隣接地 | 2015/7/15 | 2015/7/15 | その他開発（駐車場） | w | 試掘 | 5.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 吹上駕籠立場遺跡 | 2015/7/22 | 2015/9/15 | その他の開発（工事用地造成） | w | 本調査 | 1000.0 | 平戸市 | 平戸市 | 99 条 |
| | | 二本松遺跡 | 2015/7/23 | 2015/7/24 | 宅地造成 | n | 範確 | 12.0 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式 5 号 |
| | | 刈萱城跡 | 2015/7/23 | 2015/7/28 | 公園造成 | p | 範確 | 5.0 | 松浦市 | 松浦市 | 99 条 |
| | | 伊古遺跡 | 2015/7/23 | 2015/8/3 | 道路 | a | 範確 | 8.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式 5 号 |
| | | 出島和蘭商館商館跡 | 2015/7/24 | 2015/12/11 | 公園造成 | p | 本調査 | 220.8 | 長崎市 | 長崎市 | 99 条 |
| | | 富の原遺跡 | 2015/7/27 | 2015/7/31 | 住宅 | h | 範確 | 59.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 富の原遺跡 | 2015/7/27 | 2015/7/31 | 宅地造成 | n | 範確 | 90.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| 201509 | TKS | 鷹島海底遺跡 | 2015/8/1 | 2015/8/12 | 保存目的 | y | 分布調査 | 10000.0 | 県（埋文） | 松浦市 | — |
| | | 鷹島海底遺跡 | 2015/8/1 | 2015/8/12 | 学術調査 | z | 本調査 | 50.0 | 松浦市 | 松浦市 | 99 条 |
| 201506 | TAK | 竹松遺跡（車両基地 3） | 2015/8/5 | 2016/2/19 | 鉄道 | b | 本調査 | 2180.0 | 県（新幹線） | 大村市 | 99 条 |
| 201507 | KRM | 黒丸遺跡 | 2015/8/6 | 2016/1/27 | 学校建設 | g | 本調査 | 1813.0 | 県（新幹線） | 大村市 | 99 条 |
| | | 深堀遺跡 | 2015/8/7 | 2015/8/7 | その他建物（自動車車庫） | m | 範確 | 8.0 | 長崎市 | 長崎市 | 様式 5 号 |
| | | 越高遺跡 | 2015/8/10 | 2015/8/24 | 学術調査 | z | 範確 | 2.1 | 熊本大学 | 熊本大学 | 92 条 |
| | | 夫婦石遺跡 | 2015/8/10 | 2015/8/24 | 学術調査 | z | 範確 | 4.0 | 熊本大学 | 熊本大学 | 92 条 |
| | | 稲荷鬼塚古墳 | 2015/8/11 | 2016/3/30 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 18.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 99 条 |
| | | 龍王遺跡 | 2015/8/17 | 2015/8/20 | 個人住宅 | i | 範確 | 1.2 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式 5 号 |
| | | 長崎原爆遺跡（旧城山国民学校校舎） | 2015/8/17 | 2015/8/31 | 保存目的 | y | 範確 | 60.0 | 長崎市 | 長崎市 | 99 条 |
| | | 小島養生所跡 | 2015/8/17 | 2015/10/23 | 学校建設 | g | 本調査 | 352.0 | 長崎市 | 長崎市 | 99 条 |
| | | カラカミ遺跡 | 2015/8/17 | 2015/11/5 | 保存目的 | y | 範確 | 150.0 | 壱岐市 | 壱岐市 | 99 条 |
| | | 野岳平遺跡 | 2015/8/18 | 2015/8/18 | 個人住宅 | i | 範確 | 8.0 | 大村市 | 大村市 | 様式 5 号 |
| | | 東新堂原遺跡 | 2015/8/18 | 2015/8/28 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 8.0 | 南島原市 | 南島原市 | 99 条 |

| 調査番号 | 略号 | 遺跡名 | 調査開始日 | 調査終了日 | 調査原因 | 記号 | 調査種別 | 調査面積（㎡） | 調査主体 | 遺跡所在地 | 届出通知 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 原の辻遺跡 | 2015/8/19 | 2015/8/19 | 道路 | a | 範確 | 1.0 | 壱岐市 | 壱岐市 | 様式５号 |
| | | 三城城下跡 | 2015/8/24 | 2015/8/24 | 個人住宅 | i | 範確 | 15.2 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| 201510 | ISA | 諫早家御屋敷跡 | 2015/8/24 | 2015/8/28 | 学校建設（諫早高校図書館改修工事） | g | 範確 | 15.0 | 県（埋文） | 諫早市 | 99 条 |
| | | 新堂原遺跡 | 2015/8/24 | 2015/9/3 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 4.0 | 南島原市 | 南島原市 | 様式５号 |
| | | 中田遺跡 | 2015/8/27 | 2015/8/27 | その他の農業関係事業（農道等を含む） | u | 範確 | 30.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 養台寺跡 | 2015/8/27 | 2015/9/3 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 4.0 | 南島原市 | 南島原市 | 99 条 |
| | | 上横馬場遺跡（仮称） | 2015/8/27 | 2015/9/18 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 試掘 | 32.0 | 南島原市 | 南島原市 | 様式５号 |
| | | 水打場遺跡（仮称） | 2015/8/27 | 2015/9/18 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 試掘 | 52.0 | 南島原市 | 南島原市 | 様式５号 |
| | | 大潟D遺跡　隣接地 | 2015/8/28 | 2015/9/2 | 個人住宅 | i | 試掘 | 6.0 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式５号 |
| | | 石原遺跡 | 2015/8/28 | 2015/10/26 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 8.0 | 南島原市 | 南島原市 | 99 条 |
| | | 下本山岩陰遺跡（隣接地） | 2015/9/1 | 2015/9/4 | その他開発（西部CC建設） | w | 試掘 | 6.0 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式５号 |
| 201511 | HRY | （仮称）平山遺跡→一里松遺跡 | 2015/9/1 | 2015/9/14 | 鉄道 | b | 試掘 | 40.0 | 県（新幹線） | 諫早市 | 様式５号 |
| | | 溝口遺跡 | 2015/9/3 | 2015/9/5 | その他開発（駐車場造成） | w | 範確 | 4.0 | 諫早市 | 諫早市 | 様式５号 |
| | | 野中遺跡　隣接地 | 2015/9/4 | 2015/10/30 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 試掘 | 88.0 | 南島原市 | 南島原市 | 様式５号 |
| | | 黒丸遺跡 | 2015/9/8 | 2015/9/17 | 宅地造成 | n | 範確 | 140.4 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 黒丸遺跡 | 2015/9/10 | 2015/9/10 | 個人住宅 | n | 範確 | 4.5 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 冷泉遺跡（隣接地） | 2015/9/15 | 2015/9/25 | その他開発（福祉施設建設） | w | 試掘 | 52.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 大川田遺跡 | 2015/9/18 | 2015/9/18 | 個人住宅 | n | 範確 | 4.5 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 下中野第１遺跡 | 2015/9/28 | 2015/10/5 | その他の開発（消防貯水槽埋設） | w | 範確 | 12.0 | 平戸市 | 平戸市 | 様式５号 |
| | | 平野遺跡 | 2015/9/28 | 2015/10/7 | 保存目的 | y | 範確 | 36.0 | 松浦市 | 松浦市 | 99 条 |
| | | 源次広野遺跡 | 2015/10/2 | 2015/12/24 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 本調査 | 610.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 99 条 |
| | | 寿古遺跡（隣接地） | 2015/10/5 | 2015/10/5 | 個人住宅 | i | 試掘 | 6.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 富の原遺跡 | 2015/10/7 | 2015/10/7 | 個人住宅兼工場または店舗 | l | 範確 | 7.5 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 野中遺跡 | 2015/10/7 | 2015/10/30 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 44.0 | 南島原市 | 南島原市 | 99 条 |
| | | 小路遺跡 | 2015/10/8 | 2015/10/19 | その他建物（エスポワール） | m | 範確 | 47.6 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式５号 |
| | | 山領遺跡 | 2015/10/9 | 2015/10/13 | 個人住宅 | i | 範確 | 2.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式５号 |
| | | 竹辺D遺跡 | 2015/10/19 | 2015/10/23 | 個人住宅 | i | 範確 | 8.0 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式５号 |
| 201512 | INK | 諫早農業高校遺跡 | 2015/10/26 | 2015/10/30 | 学校建設（諫早農業高校野菜温室改修工事） | g | 範確 | 10.0 | 県（埋文） | 諫早市 | 99 条 |
| | | 新立遺跡 | 2015/10/26 | 2015/11/30 | その他開発（太陽光発電施設） | w | 範確 | 16.0 | 諫早市 | 諫早市 | 様式５号 |
| | | 桜町遺跡 | 2015/10/28 | 2015/11/16 | 住宅 | h | 範確 | 11.0 | 長崎市 | 長崎市 | 様式５号 |
| | | 横島和蘭商館付属施設跡 | 2015/10/29 | 2016/2/10 | 保存目的 | y | 範確 | 250.0 | 平戸市 | 平戸市 | 99 条 |
| 201513 | HRN | 原の辻遺跡 | 2015/11/2 | 2015/12/28 | 保存目的 | y | 範確 | 350.0 | 県（埋文） | 壱岐市 | 99 条 |
| | | 根獅子遺跡 | 2015/11/4 | 2015/11/10 | その他の建物（消防格納庫） | m | 範確 | 30.5 | 平戸市 | 平戸市 | 様式５号 |
| 201515 | SJK | 三城城下跡 | 2015/11/4 | 2015/11/12 | 鉄道 | b | 試掘・範確 | 60.0 | 県（新幹線） | 大村市 | 99 条 |
| | | 原の辻遺跡 | 2015/11/4 | 2016/2/22 | その他の開発（低地ため堀法面保護工） | w | 本調査 | 930.0 | 壱岐市 | 壱岐市 | 99 条 |
| 201516 | TAK | 竹松遺跡 | 2015/11/13 | 2015/12/2 | 道路 | a | 試掘・範確 | 117.0 | 県（新幹線） | 大村市 | 99 条 |
| 201514 | IBT | 井樋堤塘跡 | 2015/11/16 | 2016/2/10 | 河川 | d | 本調査 | 3300.0 | 県（埋文） | 諫早市 | 99 条 |
| | | 権現脇遺跡（O 区） | 2015/11/19 | 2016/3/25 | 河川 | d | 本調査 | 1797.0 | 南島原市 | 南島原市 | 99 条 |
| | | 百花台F遺跡 | 2015/11/20 | 2015/11/20 | その他の農業関係事業（農道等を含む） | u | 範確 | 2.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 様式５号 |
| | | 権現脇遺跡（N 区） | 2015/12/1 | 2016/3/25 | 河川 | d | 本調査 | 593.0 | 南島原市 | 南島原市 | 99 条 |
| | | 出島和蘭商館商館跡 | 2015/12/1 | 2016/3/31 | 河川 | d | 本調査 | 300.0 | 長崎市 | 長崎市 | 99 条 |
| | | 蔦木遺跡 | 2015/12/7 | 2015/12/17 | 宅地造成 | n | 範確 | 60.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 桜町遺跡 | 2015/12/7 | 2015/12/28 | 住宅 | h | 本調査 | 14.0 | 長崎市 | 長崎市 | 99 条 |
| | | 早岐瀬戸遺跡 | 2015/12/9 | 2015/12/9 | その他建物（保育園） | m | 試掘 | 16.0 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式５号 |
| | | 三城城下跡 | 2015/12/9 | 2015/12/9 | 個人住宅 | i | 範確 | 4.5 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 竹松遺跡 | 2015/12/14 | 2015/12/14 | その他の開発（駐車場造成） | w | 範確 | 4.5 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 針尾送信所遺跡（仮称） | 2015/12/14 | 2015/12/22 | その他開発（通路整備） | w | 試掘 | 15.5 | 佐世保市 | 佐世保市 | 様式５号 |
| | | 川端遺跡（隣接） | 2015/12/16 | 2015/12/18 | その他建物（農業用倉庫） | m | 試掘 | 8.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 武部遺跡（隣接地） | 2015/12/18 | 2015/12/18 | 宅地造成 | n | 試掘 | 12.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 富の原遺跡（隣接地） | 2015/12/18 | 2015/12/22 | その他の開発（駐車場造成） | w | 試掘 | 29.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 冷泉遺跡（隣接地） | 2016/1/12 | 2016/1/13 | 個人住宅 | i | 試掘 | 8.5 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| 201517 | KST | 上三反田遺跡 | 2016/1/12 | 2016/2/26 | 鉄道 | b | 本調査 | 275.0 | 県（新幹線） | 諫早市 | 99 条 |
| | | 黒丸遺跡 | 2016/1/13 | 2016/1/29 | その他開発（大型車両スペース及び事務所建築） | w | 範確 | 32.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 黒丸遺跡 | 2016/1/14 | 2016/1/29 | 宅地造成 | n | 範確 | 45.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 竹松遺跡 | 2016/1/15 | 2016/1/18 | 宅地造成 | n | 範確 | 11.0 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 黒丸遺跡 | 2016/1/20 | 2016/3/15 | その他開発（テニスコート建設） | w | 範確 | 273.0 | 大村市 | 大村市 | 99 条 |
| | | 永中遺跡 | 2016/2/9 | 2016/3/30 | その他の開発 | w | 範確 | 12.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 99 条 |
| 201519 | HRY | （仮称）平山遺跡対岸 | 2016/2/15 | 2016/2/22 | 鉄道 | b | 試掘 | 8.0 | 県（新幹線） | 諫早市 | 様式５号 |
| 201518 | ISA | 諫早家御屋敷跡 | 2016/2/22 | 2016/3/18 | 学校建設（諫早高校図書館改修工事） | g | 本調査 | 120.0 | 県（埋文） | 諫早市 | 99 条 |
| | | 弘法原遺跡 | 2016/2/24 | 2016/3/30 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 12.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 99 条 |
| | | 山田原遺跡 | 2016/2/24 | 2016/3/30 | 農業基盤整備事業（農道等を含む） | t | 範確 | 10.0 | 雲仙市 | 雲仙市 | 99 条 |
| | | 小原遺跡 | 2016/3/1 | 2016/3/28 | 個人住宅 | i | 範確 | 4.0 | 諫早市 | 諫早市 | 様式５号 |
| | | 聖宝寺跡 | 2016/3/7 | 2016/3/8 | 宅地造成 | n | 範確 | 22.5 | 大村市 | 大村市 | 様式５号 |
| | | 対馬藩お船江跡 | 2016/3/8 | 2016/3/18 | その他建物（民宿兼アトリエ） | m | 試掘 | 18.0 | 対馬市 | 対馬市 | 99 条 |
| | | 中尾上登窯跡 | 2016/3/8 | 2016/3/29 | 保存目的 | y | 範確 | 2.0 | 波佐見町 | 波佐見町 | 99 条 |
| | | 女神台場跡 | 2016/3/22 | 2016/3/30 | 保存目的 | y | 範確 | 0.5 | 長崎市 | 長崎市 | 99 条 |
| | | 小場遺跡 | 2016/3/24 | 2016/3/31 | 保存目的 | y | 試掘 | 20.0 | 壱岐市 | 壱岐市 | 99 条 |

## ６．平成 27 年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

### （１）下羽付遺跡　（しもはつきいせき）【遺跡調査番号：２０１５０８】

**所 在 地**　佐世保市世知原町矢櫃免

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

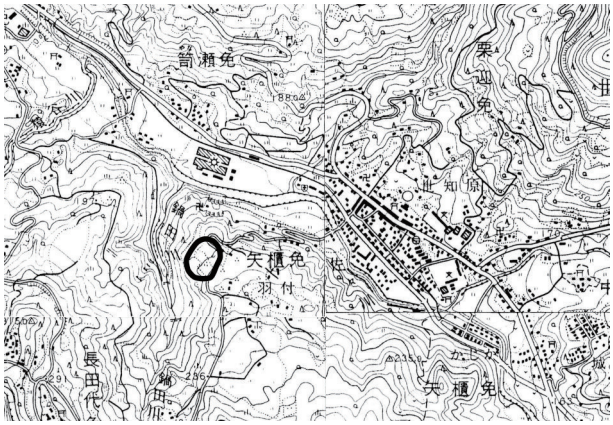
**調査原因**　主要地方道佐世保日野松浦線道路改良工事　　**調査面積**　742 ㎡

**調査期間**　平成 27 年 6 月 29 日～平成 27 年 8 月 14 日　　**調査区分**　本調査

**報 告 書**　平成 28 年 3 月刊行済み　　**処　　置**　調査後工事

**立　地**

下羽付遺跡は板山（標高 463.7m）から北西に向かって伸びる丘陵上に位置する。現在、遺跡に隣接して県道 11 号線が存在するが、県道 11 号線は丘陵の西北端から市街地に向かって標高差 70m を九十九折れで急激に下る。調査地はこの急傾斜地の手前、丘陵の先端部に位置する。



下羽付遺跡位置図〔江迎ほか〕(S=1/25,000)

**調　査**

下羽付遺跡では、これまで発掘調査がなされておらず、遺跡の内容については明らかにされていない。範囲確認調査の結果により、縄文時代早期頃の時間的なまとまりをもった包含層の存在が想定されたことから、石器製作や使用の単位としてのユニットを見出すことを目的として、本調査を行った。調査地は、長さ約 150m 最大幅 9m の三日月形である。上記のように、急傾斜地の手前、丘陵の先端部に位置することから、比較的平坦である。現状では丘陵の先端に近い側が耕作地、丘陵から離れる側が竹林であり、それぞれを第Ⅰ調査区と第Ⅱ調査区として調査を行った。調査区は、座標系（世界測地系）により 4m × 4m グリッドを設定した。また、遺物は光波測距儀を用い、座標（世界測地系）および標高を記録しながら取り上げた。

調査地遠景

第Ⅰ調査区の土層は、第 1 層（現代耕作土）、縄文時代の遺物を多く包含する第 2 層、2 層に比べてしまりの強い第 3 層、玄武岩風化土であり大形の円礫を多く含む第 4 層からなる。第Ⅱ調査区は、第 1 層（現代耕作土と埋立て土）、第 2 層（旧地表土）、第 3、4 層（無遺物層）からなる。遺物は特に第Ⅰ調査区の表土（現代耕作土）及び第 2 層において多く確認され、第Ⅱ調査区においては全く確認されなかった。また遺構は確認されなかった。

**まとめ**

上記のように、遺物は丘陵の先端部（第Ⅰ調査区）にのみ分布した。また、検出した遺物の大部分が石鏃等の狩猟具であること、また剝片石器の加工に伴う黒曜石、安山岩を中心とした剝片を多数検出したこと、土器や磨石等の居住空間に付帯する遺物も僅かに見られるものの遺構が全く検出されないこと、これらについて確認した。以上を総合的に判断して、調査地点は狩猟活動を行う際のキャンプサイトとしての性格が想定される。　【調査担当：白石・前田・谷口】（文責：白石）

## （２）鷹島海底遺跡（たかしまかいていいせき）【遺跡調査番号：２０１５０９】

**所 在 地**　松浦市鷹島町三里免床浪港東側

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

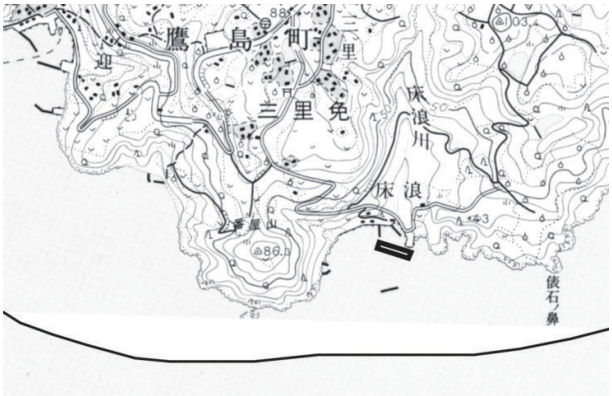
**調査原因**　－　　**調査面積**　10,000 ㎡

**調査期間**　平成 27 年 8 月 1 日～8 月 12 日　　**調査区分**　分布調査

**報 告 書**　未定　　**処　　置**　現地保存

### 立　地

鷹島海底遺跡は、伊万里湾に浮かぶ松浦市鷹島南岸延長 7.5km、汀線から沖合 200 ｍの約 150 万㎡の範囲に広がる海底遺跡である。

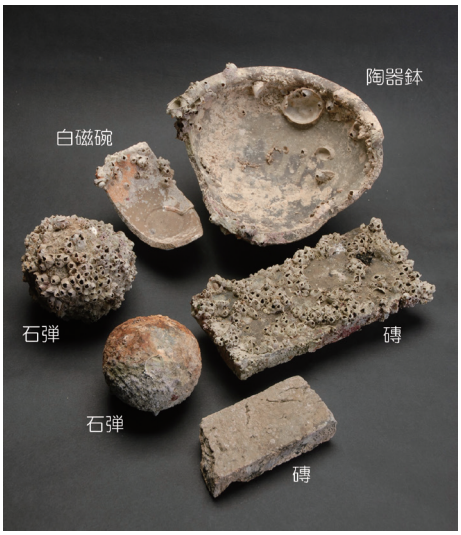


鷹島海底遺跡位置図〔志佐〕（S=1/25,000）

### 調　査

本遺跡の調査は、昭和 55 年から 30 年以上にわたり実施されており、蒙古襲来関係の遺物がこれまでに約 4,000 点発見されている。弘安の役（弘安 4・1281 年）に際し、元軍の軍船が沈没した場所として世界史的にも評価されている。平成 23 年には、琉球大学の調査によって元軍の軍船が初めて確認され、これを契機に神崎地区の 38 万４千平方メートルの範囲が鷹島神崎遺跡として平成 24 年３月 27 日に海底遺跡としては日本初の国史跡として指定されている。長崎県教育委員会では、国指定史跡範囲の追加指定を目的として、平成 25 年度から５カ年計画で床浪地区において遺物分布調査を実施している。

平成 27 年度は、平成 26 年度調査区の東側に 200m × 50m（１万㎡）の範囲で調査区を設定し遺物分布状況を調査した。考古学の知識を有し、かつ潜水士の資格を持つものを潜水調査員とした。潜水調査員３～５人程度を１チームとし、午前２チーム、午後２チームが調査区内を目視で精査していった。元寇関連と思われる遺物を発見した場合はピンポールを刺して目印とし、複数の潜水調査員の目によって確認作業を行い、元寇関連遺物と判断された遺物に関しては写真、ビデオにて形状等の記録を行い、また遺物から上げたブイを海面上でＧＰＳによって位置を記録していった。



本調査で取り上げた遺物６点

### まとめ

今年度の調査では、磚や陶磁器類のほか、石弾６点を含む計 106 点の元寇関連遺物を確認した。確認した遺物は写真撮影、観察計測記録を行い、海底面での位置情報の実測および海面でのＧＰＳによる位置出しを行った。また、特徴的な遺物に関して取り上げを行った。

【調査担当：片多】（文責：片多）

## （３）諫早家御屋敷跡（いさはやけおやしきあと）【遺跡調査番号：２０１５１０】

**所 在 地**　諫早市東小路町 7-1

**調査主体**　長崎県教育委員会

**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

**調査原因**　諫早高等学校図書館棟増築改修工事

**調査面積**　15 ㎡

**調査期間**　平成 27 年 8 月 24 日～ 8 月 28 日

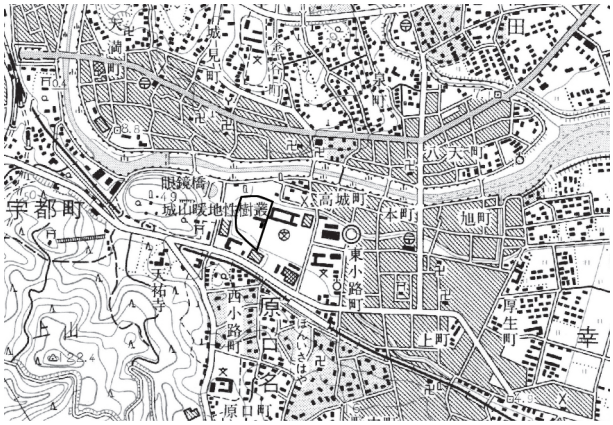
**調査区分**　範囲確認調査

**報 告 書**　平成 29 年 3 月刊行

**処　　置**　本調査

### 立　地

諫早家御屋敷跡は、諫早地峡を東へ流れる本明川右岸の平坦地に立地し標高 6m を測る。西側の丘陵には室町時代から戦国時代にかけての山城跡である高城跡（近世では諫早城）がある。工事予定地は、平成 21 年度に本調査を行った箇所と直線で 50m の近距離にあり、現存する池の正面にあたる。今回の調査地点は、諫早市立諫早図書館が所有する「諫早城下図」（文久３年）や「御屋敷図」（年代不詳）に見ることのできる御屋敷本体に相当する。



諫早家御屋敷跡位置図〔諫早〕（S=1/25,000）

### 調　査

工事対象範囲約 130 ㎡に対し 1m × 3m のトレンチを 3 カ所設定し、建物跡の礎石等遺構の検出状況に応じて適宜トレンチを拡張した。調査の結果、礎石 6 点のほか 1m 長の角柱状石材（縁石か）を検出した。これら礎石や石材は明黄褐色～橙色土ブロックが混合して硬く締まる層に埋め込まれるような状況にあり、屋敷地の造成層である可能性が考えられる。造成層より下層は一律に細砂質シルトでグライ化し暗い灰色を呈している。遺物では、表土・撹乱土中で黒曜石剥片、土師器小片、江戸時代後期～明治時代の陶磁器、鉄製品（釘・かすがい等）など約 40 点のほか、桟瓦片が多数出土した。

礎石等検出状況（北から）

### まとめ

御屋敷本体の礎石を検出したため、平成 28 年 2 月に本調査を行った。『御屋敷図』に描かれた部屋のどの部分に当るかは、近年の御書院池改修工事によって池の形が変わっているため検討が必要である。

【調査担当：松元・前田】（文責：松元）

## （4）諫早農業高校遺跡（いさはやのうぎょうこうこういせき）

【遺跡調査番号：２０１５１２】

**所 在 地**　諫早市立石町 1003

**調査主体**　長崎県教育委員会

**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

**調査原因**　諫早農業高校野菜温室改築工事

**調査面積**　10 ㎡

**調査期間**　平成 27 年 10 月 26 日～ 10 月 30 日

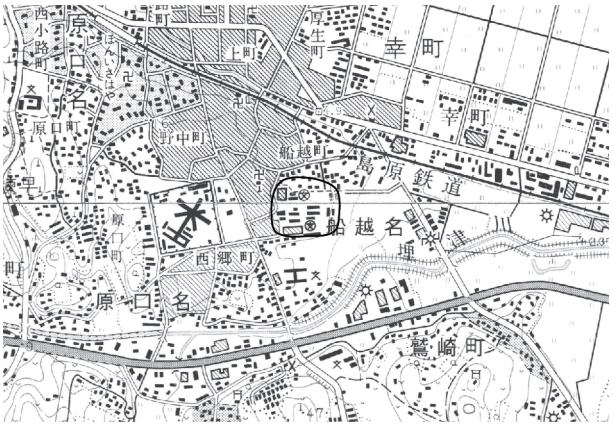
**調査区分**　範囲確認調査

**報 告 書**　刊行未定

**処　　置**　本調査

### 立　地

諫早農業高校遺跡は、諫早市の中心を流れる本明川の支流半造川左岸のなだらかな丘陵上に位置する。標高 5 ～ 12m を測り今回の調査地点は丘陵の裾部にあたる。弥生時代の遺跡として周知されており、32 基の甕棺墓や副葬品の細形銅剣がよく知られる。周辺には古代・中世の田井原条里遺跡や西郷氏・龍造寺氏が利用したとされる沖城跡が存在するほか、古代・中世の駅家である船越駅や中世の船越城があったとされている。



諫早農業高校遺跡位置図〔諫早、諫早南部〕（S=1/25,000）

### 調　査

工事対象範囲約 170 ㎡に対し 2m × 2.5 mのトレンチを 2 か所設定した。調査の結果、表土及び現代の造成土や撹乱が 0.8m と厚かったものの、その下から中世の陶磁器片を少量と弥生土器片を多量に含む包含層及び弥生土器片のみを多量に含む包含層を確認した。弥生土器片は中期土器がほとんどである。遺構では弥生時代包含層の上面でピット 10 基が検出された。うち 1 基からは弥生時代後期の肥前型器台片が出土した。遺物はコンテナ 1 箱分（石器約 20 点、土器・陶磁器約 350 点）が出土しており、多数の弥生土器片のほか黒曜石製剥片、中世の土師器片、擂鉢片等を含む。

ピット内土器片出土状況

### まとめ

ピットの検出や多量の弥生土器片を含む包含層を確認したことから、該期の集落跡が存在する可能性が考えられるため、工事に際しては本調査を行う必要がある。

【調査担当：松元・前田】（文責：松元）

## （5）原の辻遺跡（はるのつじいせき）【遺跡調査番号：２０１５１３】

**所 在 地**　壱岐市芦辺町深江平触 33-4, 32-4, 32-3【芦辺高原地区】

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

**調査原因**　原の辻遺跡調査研究事業　　**調査面積**　350 ㎡

**調査期間**　平成 27 年 11 月 2 日～平成 27 年 12 月 28 日　　**調査区分**　範囲確認調査

**報 告 書**　平成 29 年 3 月刊行　　**処　　置**　調査後埋め戻し

### 立　地

調査対象地は幡鉾川と丘陵に挟まれた標高約 5m の低地で、以前より水田として利用されていた。

原の辻遺跡平成 27 年度調査区位置図

### 調　査

調査区は、現在の水路から 35m 東側に暗渠を避けるように 3 箇所設定した。西から東へ 1 区～ 3 区とし、1 区と 3 区は 5m × 20m の 100 ㎡、2 区は 5m × 30m の 300 ㎡である。

(1) 1 区・2 区

近代の河川跡が検出され、多量の弥生土器など弥生時代の遺物とともにガラス片や磁器片などが出土している。

(2) 3 区

【集石遺構】 河川堆積土上に構築されている。近代層と推定される明赤褐と褐灰混合粘質土に覆われている。集石の上面は西側に行くに従い標高が低くなっている。礫の大きさは、大きいもので直径 50cm 程度で、10 ～ 20cm のものが多く使用されている。近代の水汲み場跡であるとみられる。

【河川跡】 調査区全面で河川堆積層が確認されている。最下層では礫層が広がり、その上に粘質土と砂質土が互層堆積している。最下層の礫層及びその上部の堆積層からは完形近く復元される大型壺や胴部に隆帯が廻り、隆帯間に三角集線文が描かれる樽形の壺、腕輪状の木製品など特異な遺物が出土しており、このほか多量の磨耗の少ない土器片が出土している。これらのことから遺物は河川に投棄後、ほどなく埋没したものとみられ、その投棄の目的としては河川祭祀の可能性が考えられる。

(3) その他

2 区の 1939 年幡鉾川直線化工事に伴う埋立土の一部（黒色粘質土）で多量の弥生時代遺物が出土した。弥生土器をはじめ青銅製鏃、楽浪系瓦質土器、三韓系瓦質土器などが含まれる。面積に比して極めて多量の遺物が出土し、本来、弥生時代の環濠など遺構に伴う土に由来するものであるとみられる。

### まとめ

弥生時代の河川跡を検出し、国内初となる腕輪状木製品など多彩な遺物が出土したという成果が得られた。

【調査担当：川道・古澤・楠本】（文責：古澤）

## （6）井樋堤塘跡（いびていとうあと）【遺跡調査番号：２０１５１４】

**所 在 地**　諫早市飯盛町開名 1 番地 4 外 23 筆 他

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

**調査原因**　江ノ浦川河川改良事業　　**調査面積**　3,300 ㎡

**調査期間**　平成 27 年 11 月 16 日～平成 28 年 2 月 10 日　　**調査区分**　本調査

**報 告 書**　平成 29 年 3 月刊行　　**処　　置**　調査後工事

### 立　地

井樋堤塘跡は、橘湾に南面する飯盛町開平野の江ノ浦川河口付近に位置し標高 1m を測る。井樋堤塘とは、近世元禄期以前は浅い入り江であった開地区を干拓するために、河川・海水の水量調整施設として江之浦川下流の最狭部に築かれた石積の堤防及び水門の跡で、現在は中州状の人工島となっている。この最狭部は火山性岩石と半固結堆積物（火山円礫岩・火山泥流）からなる台地が迫り出す地形を呈する。

井樋堤塘跡位置図〔諫早南部〕(S=1/25,000)

### 調　査

今回の調査では、平成 14 年の範囲確認調査結果を踏まえ、人工島の範囲全体を対象とした。石積堤防の全体を検出し、堤塘が「円礫積堤防 2 本（北側の堤防（北堤）と南側の堤防（南堤））が近接併行する二重構造」をなすこと、北堤構築の後に北堤補強の必要から南堤が追加構築されたこと等、範囲確認調査で指摘された状況を追認した。また堤塘跡の全体を調査することで、北堤と南堤、あるいはそれぞれの部位によっても築石の種類（割石か丸石か）や大きさ、積み方が異なることが確認できた。部位毎の施工時期の違い、あるいは古文書『諫早日記』にも記載のある損壊・補修痕跡である可能性がある。一方、範囲確認調査で部分的に検出された石積表面の「鋼土」や、石積に付帯する「中位堰堤」を再検出したが、後世の所産である可能性が考えられる。

井樋堤塘跡全景（左岸側から）

### まとめ

今後の課題として、二重構造堤防の類例探索や、佐賀藩・諫早領における開平野干拓の歴史的意義を検討する必要がある。

【調査担当：松元・前田・今西・谷口】（文責：松元）

## （７）諫早家御屋敷跡（いさはやけおやしきあと）【遺跡調査番号：２０１５１８】

**所 在 地**　諫早市東小路町 7-1

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　長崎県埋蔵文化財センター

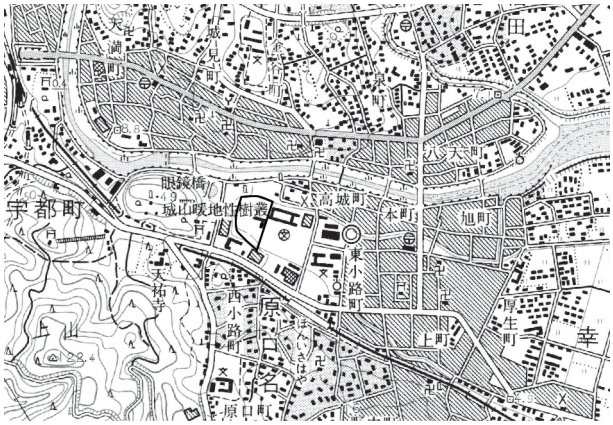
**調査原因**　長崎県立諫早高等学校図書館棟増築改修工事　　**調査面積**　120 ㎡

**調査期間**　平成 28 年 2 月 22 日～ 3 月 18 日　　**調査区分**　本調査

**報 告 書**　平成 29 年 3 月刊行　　**処　　置**　調査後工事

### 立　地

諫早家御屋敷跡は、本明川右岸の標高 6 m程の平坦地に位置する。遺跡西側の丘陵には、中世山城跡である高城跡（諫早城）や、諫早家菩提寺の天祐寺が所在する。本明川は度々氾濫しており、1957（昭和 32）年の諫早大水害では遺跡周辺も被害を受けている。



諫早家御屋敷跡位置図〔諫早〕（S=1/25,000）

### 調　査

調査では 5a 層と 5b 層の２面で、幅３間、奥行７間分の礎石を検出した。礎石は 5a 層と 5b 層ともに土坑に根固め石を充填させた上に据えられていたが、礎石の石材は 5a 層が安山岩系、5b 層が硬質砂岩と異なっていた。5a 層礎石のほとんどが 5b 層礎石の直上に据えられており、建て替えによって積み足された様子が伺える。遺物は角釘や近世瓦などが出土している。

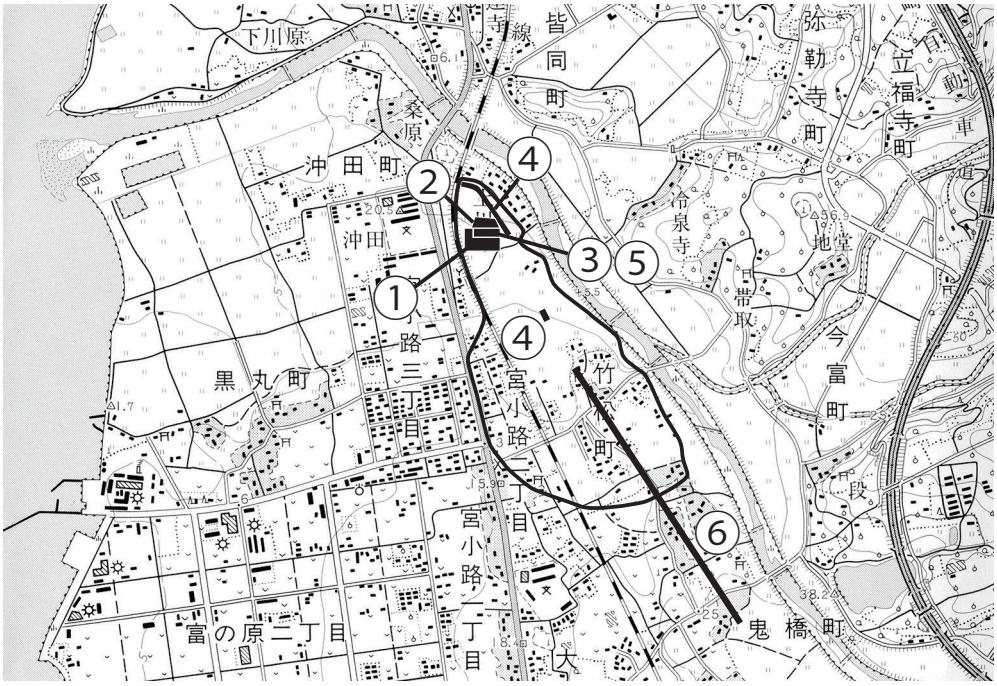
調査区航空写真

### まとめ

今回の調査範囲は、御屋敷の池泉回遊式庭園心字池の北側正面にあたる。『諫早城下図』（文久 3 年）、『御屋敷図』（年代不詳）には池の正面に建物の描写があり、今回の調査はそれらの絵図を裏付ける結果となった。5a 層礎石は昭和 40 年まで存続し、解体された旧御書院の礎石と思われる。

【調査担当：松元、前田】（文責：前田）

## （8）竹松遺跡




竹松遺跡および調査地点位置図〔武留路山〕（S=1/25,000）

平成 27 年度竹松遺跡発掘調査一覧表

| | 遺跡名<br>遺跡調査番号 | 所在地 | 調査原因 | 調査面積 | 調査期間 | 調査区分 | 報告書 | 処置 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | 竹松遺跡<br>TAK201501 | 大村市沖田町<br>732 番 1　他 | 新幹線関連 | 4,400 ㎡ | 平成 27 年 5 月 26 日～<br>平成 28 年 1 月 20 日 | 本調査 | 刊行未定 | 調査後工事 |
| ② | 竹松遺跡<br>TAK201502 | 大村市沖田町<br>88 番 1　他 | 新幹線関連 | 2,800 ㎡ | 平成 27 年 6 月 15 日～<br>平成 27 年 12 月 14 日 | 本調査 | 刊行未定 | 調査後工事 |
| ③ | 竹松遺跡<br>TAK201503 | 大村市沖田町<br>741 番地　他 | 新幹線関連 | 40 ㎡ | 平成 27 年 6 月 1 日～<br>平成 27 年 6 月 16 日 | 範囲確認 | 刊行未定 | 本調査 |
| ④ | 竹松遺跡<br>TAK201504 | 大村市沖田町<br>135 番 1　他 | 都市計画道路<br>「池田沖田線」建設 | 5,480 ㎡ | 平成 27 年 5 月 28 日～<br>平成 28 年 2 月 18 日 | 本調査 | 刊行未定 | 調査後工事 |
| ⑤ | 竹松遺跡<br>TAK201506 | 大村市沖田町<br>741 番地　他 | 新幹線関連 | 2,180 ㎡ | 平成 27 年 8 月 5 日～<br>平成 28 年 2 月 19 日 | 本調査 | 刊行未定 | 調査後工事 |
| ⑥ | 竹松遺跡<br>TAK201516 | 大村市竹松町<br>2337 番地　他 | 都市計画道路<br>「池田沖田線」建設 | 117 ㎡ | 平成 27 年 11 月 13 日～<br>平成 27 年 12 月 2 日 | 試掘・<br>範囲確認 | 刊行未定 | 本調査 |

長崎県教育委員会が主体となり新幹線文化財調査事務所が調査を担当した竹松遺跡については記述を一括した。調査地点位置図中の番号は一覧表の番号に対応している。

### 立地

竹松遺跡は大村市竹松町、宮小路２丁目、沖田町に所在する。大村市北部には多良岳を源流として大村湾に注ぐ二級河川の郡川によって形成された大村扇状地が広がっている。遺跡はこの扇状地の北側扇端、郡川下流域の西岸に位置する。周辺の地形は南東から北西に緩やかに傾斜し、標高は 10 ～ 15m を測る。遺跡周辺は宅地および田畑として利用されているが、現在遺跡範囲の大部分で九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）関連の工事が行われており、景観は大きく変わりつつある。

①遺跡調査番号：２０１５０１

調　査

本調査における検出遺構は、古墳時代から古代の掘立柱建物跡 4 棟、溝跡 6 条、不明遺構 1 基、ピット 27 基、中世の掘立柱建物跡 1 棟、自然流路跡 1 条、土坑 6 基、ピット 10 基である。

検出された古墳時代から古代の掘立柱建物跡 4 棟のうち 2 棟は総柱建物、残り 2 棟は側柱建物である。4 棟のうち 3 棟については、誤差はあるがおおむね同じ北東方向を主軸とし、建物の規模も近い。6 条の溝跡のうち一部については、昨年度の隣接調査区（TAK201406）で検出されたものにつながり同一の遺構となる。なお、溝跡については、調査を進める中で平面や断面の形状が一定ではないことが確認できたため、人為的な掘り込み行為による溝跡ではなく、細い自然流路跡の可能性がある。不明遺構 1 基は、小型丸底壺が直立した状態で 5 つ据えられていた。

中世の掘立柱建物跡 1 棟は 2 間× 2 間の総柱建物である。自然流路跡 1 条は、南岸と西岸の一部および西側は昨年度の隣接調査区（TAK201406・TAK201407）で検出されたものにつながり同一の遺構となる。東から西に流れるなかで一度南から北へ流れを 90 度変え、S 字状になることが確認できる。

出土遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、貿易陶磁器、近世陶磁器、石器、石製品、金属製品、ガラス製品である。

縄文土器は縄文時代晩期の土器片が出土している。弥生土器は弥生時代中期の壺、甕および弥生時代後期の壺、甕、高坏、器台が出土している。土師器は壺や甕などが出土しており、このうち不明遺構から出土した小型丸底壺は 5 世紀代のものである。須恵器は坏身、坏蓋、壺、甕が出土している。貿易陶磁器は白磁、青磁の碗や皿が出土している。

石器では、扁平打製石斧や石鏃のほかに石包丁が出土している。石製品では、滑石製石鍋を主体とする滑石製品の出土が多い。このうち自然流路跡から、梵字が三面に彫り込まれ、下には蓮座が彫り込まれた滑石製の笠塔婆状製品が出土した。また、同じく自然流路跡から石帯が出土している。このほか、ガラス製品としてはガラス小玉が出土している。

出土した梵字の彫り込まれた滑石製笠塔婆状製品

まとめ

今回の調査では、縄文時代から近世までの遺物、古墳時代から古代の建物跡、溝もしくは自然流路跡、用途不明遺構、ピットと、中世の建物跡、自然流路跡、土坑、ピットを検出した。

調査から得られた情報に基づいて今回の調査区の環境を復元すると、大部分は水の流れに影響を受け続け定住に適さない土地、すなわち河川およびその岸辺などのような水辺環境であったと推察される。また、梵字の彫り込まれた滑石製品、石帯などの出土例の稀な遺物の出土があることは、これまでの調査で明らかになりつつある竹松遺跡の性格を追認する資料として位置づけられる。

【調査担当：濵村・江口・東郷・渡邊】（文責：濵村）

②遺跡調査番号：２０１５０２

調　査

本遺跡周辺には，北西に沖田条里跡（古代・中世），西に黒丸遺跡（縄文～古墳・中世），南西には富の原遺跡（弥生時代）といった大規模遺跡が所在し，古くから継続的に人々の営みが残されてきた場所でもある。明治初期の公図では，調査地点の南西に条里地割の痕跡がうかがえることから，当該期の水路や条里畦畔が残されている可能性を考慮に入れて発掘調査を実施した。

調査区（A・B 区）全景

調査では，土石流や土砂・礫の自然堆積層とともにA･B･D 区で水田と思われる面を検出した。

A・D 区での植物珪酸体分析結果では，全ての層においてイネのプラントオパールが検出され、稲作が（一部ではムギ類の栽培も）行われた可能性が指摘された。当初，水田面は 2 ～ 3 時期存在するものと想定していたが，各層位間におけるイネの密度は大差なく、遺物も概ね弥生～ 14 世紀の遺物がまんべんなく混入し，特段の変化はなかった。

主な遺構としては，A 区では石垣 01 と石垣 02，不明遺構 01，B 区では石列 03，D 区では石列 06・石列 08，溝跡 01 がある。

調査区（D 区）全景

遺物は縄文晩期から近世初頭まで約 3 万点（コンテナー 30 箱分）が出土した。ただし、その 4 割は最下層の土石流からの出土であった。

まとめ

中世期に発生した土石流が土地を深くえぐり、条里遺構に関しては何ら痕跡を把握することはできなかったものの、その後は水田として継続的に利用されてきたことは間違いない。堆積当時は，ヨシ属が生育するような湿潤な環境であったと考えられ，そこを利用して水田稲作が行われていたと推定される。

【調査担当：本田・新井】（文責：本田）

③遺跡調査番号：２０１５０３

調　査

九州新幹線西九州ルート車両基地建設予定地内の標高 10 ～ 15m の水田および畑地に 2 × 2m のトレンチを 10 カ所設定した。

標高が高い場所に設定した 4 か所のトレンチでは、後世の削平により包含層は確認できなかったが、標高が低い場所に設定したトレンチ 6 ヵ所のうち 5 ヵ所からは、縄文時代晩期、弥生時代、古墳時代の包含層を確認することができた。また、検出した遺構や遺物は、弥生時代の炉跡と思われる焼土と台石、大型の縄文時代晩期土器片 2 点、時期不明の杭列がある。

炉跡検出状況

まとめ

包含層を確認したトレンチは、5 ヵ所であったが、包含層が重なり、遺構が集中している地点もあった。また、炉跡と思われる焼土の広がりや台石を検出したトレンチ周辺には、住居跡の存在が予想される。これらは、本調査が必要な地点であり、面積は 2,180 ㎡である。

調査風景

【調査担当：村川・川畑・田島】（文責：川畑）

④遺跡調査番号：２０１５０４

調　査

調査区は、旧河道～三角州にかけて立地する北側のＡ区（4,500 ㎡）と、微高地に立地する南側のＢ区（980 ㎡）に分かれる。

Ａ区では、新期扇状地礫層と考えられる礫層を基盤とし、その上に水成堆積物である砂質土が堆積する状況が基本で、砂質土中に摩滅した弥生土器や土師器、須恵器などが含まれている。昭和 30 年代の諫早大水害でも洪水が流れた場所に該当するようで、ごく最近まで水が流れやすい環境にあったと考えられる。遺構としては、近世の水田遺構１面、中世の土坑墓４基のほか、近世から現代にかけての溝状遺構や自然流路を確認した。水田遺構は、きめの細かい砂層に覆われる形で、耕作面と考えられる強粘質土の平坦面及び畦畔と考えられる幅 50cm、高さ 10cm の高まりが確認できた。土層断面の観察では、旧河道の堆積で形成された砂礫層の上に、厚さ５～ 10cm の粘土を貼って水田の床土及び耕作土としている状況を確認できた。水田検出面では、見込みに蛇ノ目釉剥ぎが残る肥前陶磁が出土することから、18 世紀以降の水田遺構と考えられる。土坑墓４基のうち、土坑墓１は拳大の礫を楕円形に集積した状態で検出した。礫を除去すると、角礫を長軸長 160cm に渡って長方形に配置し、炭化物が充填された遺構を検出した。炭化物内には焼けた人骨片が含まれていた。また、長方形に配した角礫の一部は激しく被熱しており、この場で火葬したと考えられる。隣接する土坑墓２は、土坑墓１と同じく拳大の礫を円形に集積した状態で検出したが、埋葬施設は床面に人頭大の礫を長方形に配置した長軸長 200cm の土坑であった。このほか、炭化物とともに焼骨が見つかった土坑墓３、土坑墓４は、いずれも長方形の土坑であるが、集石や配石は確認できなかった。これらの遺構内からは時期を特定できる遺物は出土しなかったが、炭化物の C14 年代を測定したところ、14 世紀後半（室町時代）の年代が得られている。

Ｂ区では、11 世紀後半とみられるピット群を 340 基検出し、総柱建物３棟、側柱建物４棟を確認した。これらの建物群は、切りあい関係があることから、少なくとも２時期にわたるが、いずれも南北２列に直線状に配置されている。また、これらの建物群に伴うと見られる柵列のほか、複数のカマドを有する大型の竪穴建物跡が検出されている。これらの遺構群からは、土師器の坏、皿のほか、越州窯系青磁や白磁が少量出土している。このほか、Ｂ区では弥生時代の竪穴住居跡や、縄文晩期の遺物包含層を確認した。

Ｂ区掘立柱建物群検出状況（北から）

まとめ

今回の調査では、Ａ区では近世の水田跡や中世の土坑墓のほか、多数の溝状遺構や自然流路を確認した。中世以前の旧河道が断続的な水成堆積により埋没する過程で、14 世紀以降開発された過程を確認できた。また、Ｂ区では 11 世紀後半の掘立柱建物群や柵列などを確認した。これらは南北に直線状に配列するなど、比較的規格性が高いことから、有力者層の倉庫群と推測される。

【調査担当：中尾・小松】（文責：中尾）

⑤遺跡調査番号：２０１５０６

調　査

遺構は、弥生時代中期は須玖Ⅱ式の甕を用いた合せ口の小児甕棺墓が出土した。また弥生時代後期の遺構としてはⅢａ層・Ⅳａ層・Ⅳｂ層より掘立柱建物跡、円形の竪穴建物跡、石蓋付甕棺墓と合せ口甕棺墓、大規模な焼土を持つ円形遺構とそれに伴う土坑が出土した。さらに大規模な焼土跡を持ち円形で床面積の半分程に厚い焼土が広がり、多量の弥生土器が出土した遺構も出土した。古墳時代の遺構はⅢ層・Ⅲａ層より杭列（柱列）跡、廂を持つ総柱の掘立柱建物跡、6 世紀後半の遺物が共伴する方形の竪穴建物跡を検出した。古代については土坑を検出したが、断面に柱痕跡らしき状況が見て取れ、大型建物跡の一部である可能性もある。

Ⅳａ層遺構完掘状況

遺物はⅣｂ層最下面より縄文時代晩期の土器、大型の打製石斧、石鏃等が一定数出土している。弥生時代の遺物は、中期の土器のほか、後期の土器、ガラス小玉や石包丁、免田式など搬入品の破片も確認した。古墳時代の遺物は、主に 6 世紀後半の土師器と須恵器が豊富に出土した。古代の遺物は上記土坑内の金属製権と鉄製鎌、中世以降の出土遺物はⅠ層・Ⅱ層から貿易陶磁器、近世陶磁器が出土した。

まとめ

調査区の南側は地表の浅い部分から地山が露出し、旧地形として南側は微高地、低地部の北側に包含層が残存し遺構が集中している状況が確認された。弥生時代中期には生活が営まれ、その後弥生時代後期になり、竪穴建物が構築され居住域が存在していた。古墳時代も同様のことが言える。金属製権の出土状況より古代以降の遺構面も存在していたと考えられるが、後世の土地造成時に削平を受け失われたものであると判断した。

出土した金属製権

金属製権は全国でも数十例の出土数に留まり、ほとんどが国衙･郡衙跡から出土していることから、過年度の調査で出土した文字資料や仏教関連遺物等とあわせて、郡衙の存在を窺わせるのに重要な資料となった。

【調査担当：田島・小川】（文責：田島）

⑥遺跡調査番号：２０１５１６

調　査

平成 26 年度に続き、都市計画道路「池田沖田線」建設予定地内の、東西 21m 南北 700m の範囲に 23 か所のトレンチを設定した。調査対象地が南北に広がり、トレンチのおよそ半分は竹松遺跡から外れて、南に立地する平野遺跡や川端遺跡のそばや立小路遺跡の北にも設定することとなった。

平成 27 年度検出倉庫群の南隣接地より検出したピット

竹松遺跡内では、平成 27 年度に調査をし、倉庫群を検出した地区の南に隣接する地区から、ピットを複数検出した。出土した遺物から古代末～中世のものと思われ、倉庫群との関連が考えられる。

平野遺跡、川端遺跡の近くに設定した複数のトレンチからも、時期は不明であるがピットを複数検出し、古墳時代の土師器高坏が出土した。また、隣接地の側溝蓋として使われている玄武岩の板石について耕作者に尋ねたところ、道路建設予定地を含む畑から以前掘り出したもので、他にも数個あったとのことであった。この石は形状から箱式石棺の部材と思われ、周辺に石棺が残っていることが十分に予想される。

立小路遺跡近くに設定したトレンチでは、後世の大規模な削平が確認され、包含層は消失していた。

平野遺跡隣接地より出土した古墳時代土師器高坏

まとめ

竹松遺跡内の調査では、ピット群を検出したトレンチ周辺が本調査の対象地であり、面積は 1,989 ㎡である。竹松遺跡より南では、ピット群を検出したトレンチや、箱式石棺の部材と思われる板石が掘り出された周辺が本調査の対象地であり、面積は 4,210 ㎡である。平成 26 年度の試掘調査で必要とされた本調査面積は 1,700 ㎡であるので、すべてを合計すると本調査対象地の面積は 7,899 ㎡となる。

【調査担当：村川・川畑】（文責：川畑）

## （９）長崎市東町 56km 地点遺跡（仮称）（ながさきしひがしまち 56km ちてんいせき）

【遺跡調査番号：２０１５０５】

**所 在 地**　長崎市東町 2337 番地

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

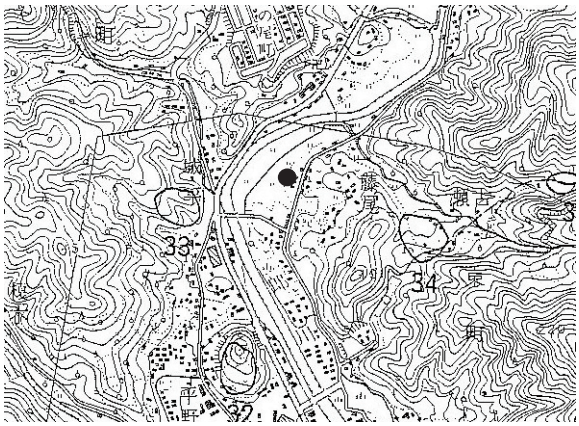
**調査原因**　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設　　**調査面積**　４㎡

**調査期間**　平成 27 年 6 月 29 日～平成 27 年 7 月 3 日　　**調査区分**　試掘調査

**報 告 書**　刊行なし　　**処　　置**　調査後工事

### 立　地

調査地である長崎市東長崎地区は、井樋ノ尾岳（407m）、船石岳（451m）などの東西の豊肥系火山に挟まれた地溝部に位置する。諫早市多良見町市布南部（長崎多良見インター付近）を分水嶺とし、北の大村湾へ喜々津川、南の千々石湾へ八郎川が流れ出る。喜々津から矢上に至る地溝部全体を国道 34 号線が貫通する。八郎川が南西から矢上付近の河口に向かって南方向へ向きを変える蛇行部の内側、左岸の低い段丘上に調査区は位置する。



長崎市東町 56km 地点遺跡（仮称）位置図〔長崎東北部〕(S=1/25,000)

### 調　査

調査地の現況は、八郎川の氾濫原の水田と河岸段丘上の宅地域にはさまれた微高地の栗林であり、水田から宅地の際に向かってゆるやかに傾斜をしている。土層堆積の傾斜を想定し、また栗の樹根による攪乱の影響を排除するため、土地の傾斜に向かって垂直方向に細長く 1.0 × 4.0m の試掘坑 TP 1 を設定した。掘削は、表土から全て人力をもって層序ごとに段階的に行った。

現地での聞き取り調査の結果、調査区の栗林は昭和 57 年の長崎大水害での八郎川の氾濫によって大きな被害を受けた後、盛土を行なった後に再整備されたこと、以前はごぼう畑であったことなどが分かった。国土地理院による昭和 50 年撮影の航空写真を参照したところ、周囲の農地の地割は現況と大きく異なっていた状況を確認できた。

調査地近景（中央部栗林の中）

### まとめ

試掘の結果、50cm ほどの客土の下にわずかな旧表土が残存しているほかは、直ちに地山に達する状況を確認した。

今回の調査では遺構は確認できなかった。遺物もごく少量でありすべて表土、客土中からの出土のため、この部分は新幹線の工事に際して支障はないと考えられた。

【調査担当:村川・川畑】（文責:村川）

## （１０）黒丸遺跡　（くろまるいせき）【遺跡調査番号：２０１５０７】

**所 在 地**　大村市宮小路３丁目 他

**調査主体**　長崎県教育委員会

**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

**調査原因**　県立ろう学校移転

**調査面積**　1,813 ㎡

**調査期間**　平成 27 年８月６日～平成 28 年１月 27 日

**調査区分**　本調査

**報 告 書**　平成 28 年度刊行

**処　　置**　調査後工事

黒丸遺跡位置図〔武留路山〕(S=1/25,000)

### 立　地

黒丸遺跡は大村扇状地の郡川の河口の南側に位置し、標高 0m ～ 10m 前後を測り、東西約１km、南北約 1.4 km の範囲に所在する。現在周辺は宅地、田畑として利用される。遺跡は縄文時代から中世の包蔵地として周知されており、本調査区はその東隅に位置する。

### 調　査

調査は発掘対象となる建物の基礎部分に応じて南北にＡ～Ｆの調査区を設け更に東西に 10m ごとにグリッドを設定した。Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｆ１区の西側とＢ区の北側にトレンチを設定し土層確認を行った。掘削は、表土を重機で、それ以降の包含層は全て人力で行った。最終的には数万年前に形成されたと考えられる非常に硬い古土層（５層）まで掘り下げた。さらに、Ｆ４区で５層を重機で掘削し、６層を人力で掘削して下層確認を行った。

### まとめ

調査区を東から西へ流れる自然流路（NR01）からは中世の五輪塔の空風輪・宝塔露盤、近世のコンタツのコンタ（花珠）も含め縄文時代晩期の土器・石器から近代のガラス製品まで出土した。調査区の北西隅にだけ残る３層からは古墳時代の土師器が、４層からは縄文時代晩期の遺物が多数出土した。

３層からは竪穴住居２基・廃棄土坑１基・掘立柱建物１基が、４層からは埋甕３基・落とし穴３基・竪穴住居の壁柱穴１基・集石３基・配石１基が検出された。

作業風景

出土した遺物、検出された遺構より１層は耕作土、２層は床土で農客土、３層は古墳時代、４層は縄文時代晩期の包含層であると考えられる。自然流路（NR01）からは中世から近世にかけての宗教的遺物が出土しており、近辺に関連施設があったものと思われる。また、縄文晩期の埋甕が抜かれた底部まで含めほぼ完全な形で検出されたことは、当時の埋甕の設置の方法を見る糸口になる資料であるといえる。さらに、大量の打製石斧が出土しており縄文晩期の農耕へのかかわりがうかがわれる。

【調査担当：浦田】（文責：浦田）

## （１１）（仮称）平山遺跡（ひらやまいせき）【遺跡調査番号：２０１５１１】

**所 在 地**　諫早市平山町 53-1

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

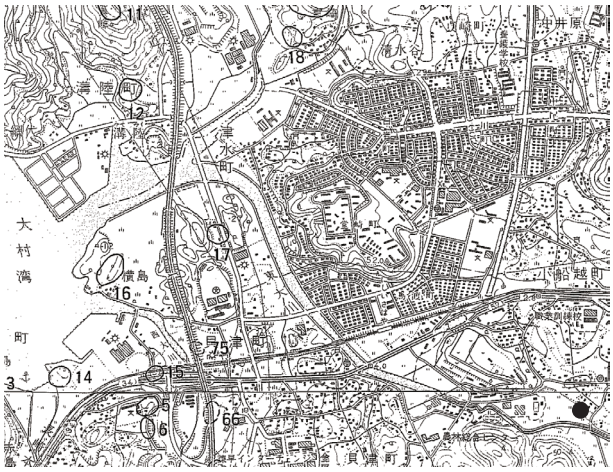
**調査原因**　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設　　**調査面積**　40 ㎡

**調査期間**　平成 27 年 9 月 1 日～平成 27 年 9 月 14 日　　**調査区分**　試掘調査

**報 告 書**　刊行なし　　**処　　置**　本調査

### 立　地

諫早市は大村湾・橘湾・有明海に挟まれた地峡部にある。西の大村湾に西大川と東大川、東の有明海へ本明川と半造川が流れ、水上交通と陸上交通の結節点として旧石器時代から長崎県本土部で枢要な位置を占めてきた。東大川河口部では中世から近世にかけて津水港が物流拠点として栄えた。調査地は、諫早旧城下町から南西の平山町に位置し、大村湾口に流れ込む東大川によって灌漑される狭小な水田地帯である。



（仮称）平山遺跡位置図〔諫早・諫早南部〕（S=1/25,000）

### 調　査

新幹線文化財調査事務所は、平成 25 年 8 月 6 日（火）に諫早市平山町の東大川右岸（武雄より 46K800m ～ 47K00m）に於いて埋蔵文化財の有無を確認するため分布調査を行った。

その結果、当該地に於いて広範囲に縄文時代を主とした遺物が採集されたので、試掘調査が必要であると判断し、鉄道建設・運輸施設整備支援機構へ文書により報告を行った。その後、鉄道建設・運輸施設整備支援機構からの要請を受け、平成 27 年 9 月 1 日（火）から 9 月 14 日（月）までの 10 日間で、埋蔵文化財の包蔵状態を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査対象地の中で、調査が可能な 3,500 ㎡の範囲に 20m 間隔で 10 箇所に試掘調査坑を設定して進めた。

### まとめ

試掘調査を実施した 10 箇所の中で、９箇所の調査坑の第Ⅲ層と第Ⅴ層から縄文時代の土器と石器を確認した。特に TP ８からは炭化物が混じる不明落ち込みを確認し、何らかの人為的な遺構であると判断された。その第Ⅲ層の包含層の厚さは 5 ～ 60cm で、Ⅴ層を合わせると１m 内外の包含層の厚さがある。出土した土器は前期の曾畑式土器系のものと後期の坂の下式土器や晩期のものではないかと思われるものがあり、少なくとも３時期が認められ、出土した深度も浅いものと深いものがあることから、数千年の幅で包蔵されていることが推測される。これらの試掘調査の結果より、調査対象地 3,500 ㎡については、全域が開発工事に係る場合の要協議対象地としてあげられる。

なお遺跡は当調査後「一里松遺跡」の名称で周知されている。【調査担当:村川・川畑】（文責:村川）

## （１２）三城城下跡（さんじょうじょうかあと）【遺跡調査番号：２０１５１５】

**所 在 地**　大村市乾馬場町 906-1 他

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

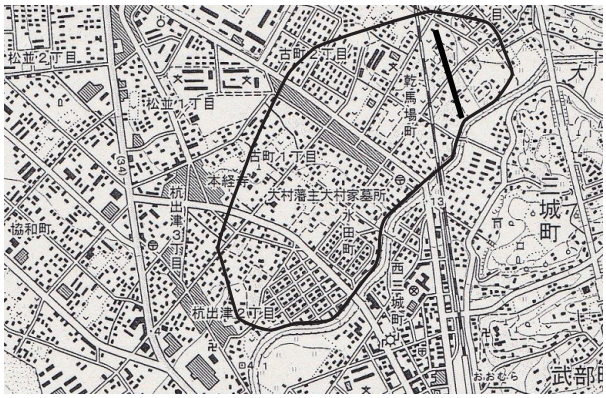
**調査原因**　新幹線関連　　**調査面積**　60 ㎡

**調査期間**　平成 27 年 11 月 4 日～平成 27 年 11 月 12 日　　**調査区分**　試掘調査

**報 告 書**　刊行なし　　**処　　置**　本調査

### 立　地

三城城下跡は、大上戸川の右岸、標高 7 ～ 18 mに位置し、キリシタン大名である大村純忠が築いた三城城の北に広がる城下町である。純忠没後、城は大村湾に面する玖島に移ったため、武家の移転が進み農地や閑地となったが、現在も戦国期以来の数本の直線道路により規定された方形区画が大村館推定地を中心に残る。また、方形の区画内の屋敷地を区画した土塁も随所に残る。




三城城下跡位置図〔武留路山〕（S=1/25,000）

### 調　査

平成 25，26 年度に、遺跡内を通る買収済みの新幹線路線用地の調査を実施したが、未調査の部分が残っていた。そこで、調査可能となった箇所について 14 箇所の試掘坑を設定し調査を行った。その結果、平成 26 年度の調査で、遺構や遺物を確認した範囲に接した 3 カ所の試掘坑からは、包含層や遺構を確認することができたが、他の調査坑では大がかりな削平や攪乱のために遺構を確認することはできなかった。

試掘坑で検出した中世のピット

### まとめ

中世の遺物と、同時期の柱穴を確認した試掘坑の周辺が本調査の対象地であり、面積は 437 ㎡である。隣接した昨年度の調査で本調査が必要な範囲を 933 ㎡と示しており、合計して 1,370 ㎡が次年度に本調査が必要な面積となる。

【調査担当：村川・川畑】（文責：川畑）

## （１３）上三反田遺跡（かみさんたんだいせき）【遺跡番号：２０１５１７】

**所 在 地**　諫早市下大渡野町 1687 番 4　他

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

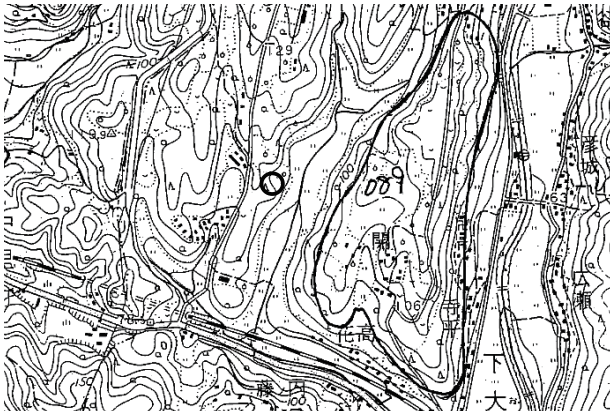
**調査原因**　新幹線関連　　**調査面積**　275 ㎡

**調査期間**　平成 28 年 1 月 12 日～平成 28 年 2 月 26 日　　**調査区分**　本調査

**報 告 書**　平成 29 年 3 月刊行　　**処　　置**　調査後工事

### 立　地

上三反田遺跡は、多良山系の大花山から火山麓扇状地を開析して南流する西谷川右岸の河岸段丘上に立地し、標高は 72m 前後である。東西には台地が迫り、比高差は 50m ほどである。また、遺跡の南は標高 100m 以下の地峡帯に面しており、古来から諫早と大村をつなぐ陸路の要衝に位置している。西谷川を挟んで東側の台地上には、中世の尾和谷城跡があるほか、地峡帯に沿うように中世城館が分布している。



上三反田遺跡位置図〔諫早〕（S=1/25,000）

### 調　査

調査は、新幹線建設に伴う変電設備建設予定地のうち、試掘調査で遺物が出土した地点を中心に、275 ㎡を対象に実施した。調査の結果、近世以降の水田造成に伴う大規模な盛土の痕跡を確認した。また、盛土の基底面には、岩盤を切って蓋をした排水溝や、土留めと思われる石列が伴っていた。

遺物は、包含層中から近世陶磁器や中世の石鍋片、黒曜石製石鏃などが出土したほか、10b 層とした造成前の旧地表面からは、安山岩製の大型剥片やスクレイパー、黒曜石製石鏃、無文土器などが出土した。石鏃の形態や石器群の組成は、福岡市松木田遺跡や元岡・桑原遺跡群、大原 D 遺跡出土石器群の様相に類似することから、縄文時代草創期末～早期前葉頃の遺物と推測される。

作業風景

### まとめ

今回の調査では、縄文時代草創期～早期前葉と思われる石器群を主体とする遺物が出土した。同時期の遺物と考えられる細石刃や局部磨製石鏃などが上層の造成土からも出土しており、隣接する段丘面の削平に伴って二次堆積したものと推測される。このほか、近世以降の水田造成の過程を復元することができ、河川流域による土地利用の変遷が確認できた。

【調査担当：中尾・濵村・新久保】（文責：中尾）

## （１４）（仮称）平山遺跡対岸（ひらやまいせきたいがん）

【遺跡調査番号：２０１５１９】

**所 在 地**　諫早市平山町 474-4

**調査主体**　長崎県教育委員会　　**調査担当**　新幹線文化財調査事務所

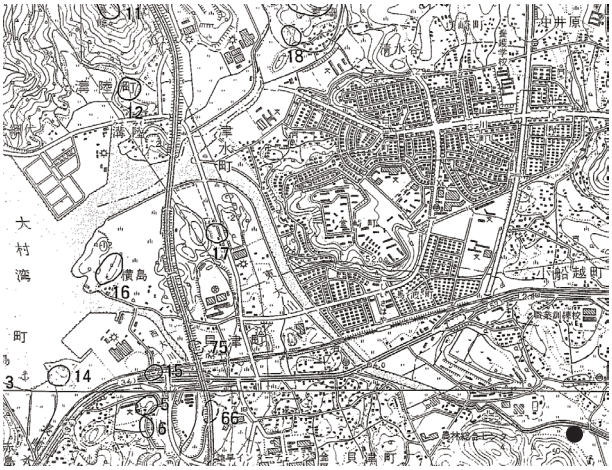
**調査原因**　九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）建設　　**調査面積**　8 ㎡

**調査期間**　平成 28 年 2 月 15 日～平成 28 年 2 月 22 日　　**調査区分**　試掘調査

**報 告 書**　刊行なし　　**処　　置**　調査後工事

### 立　地

諫早市は大村湾・橘湾・有明海に挟まれた地峡部にある。西の大村湾に西大川と東大川、東の有明海へ本明川と半造川が流れ、水上交通と陸上交通の結節点として旧石器時代から長崎県本土部で枢要な位置を占めてきた。東大川河口部では中世から近世にかけて津水港が物流拠点として栄えた。調査地は、諫早旧城下町から南西の平山町に位置し、大村湾口に流れ込む東大川によって灌漑される狭小な水田地帯である。



（仮称）平山遺跡対岸位置図〔諫早・諫早南部〕（S=1/25,000）

### 調　査

試掘調査対象地の中で、上下二段のうち上段の水田面とその下の畑地に 2m × 2m の試掘坑を２箇所設定して進めた。　調査坑の２箇所設定は、南側の一段高い水田面とその下の畑地に設定した（T.P.1、T.P.2）。Ⅱ層は、本来は対岸の試掘調査で見られた縄文の包含層と同じ層であったと思われるが、上位の層が削平を受け表土直下となったために、後世の遺物の混入が見られ安定した層とは言えない。3 層以下の層は、（仮称）平山遺跡（HRY201511）T.P.2 や T.P.7 の 7 層以下の層に似る（いずれも縄文包含層の下位にある層で、無遺物層）。なお、T.P.1 は湧水のために壁の崩落が激しく、模式図で記録を行った。

（仮称）平山遺跡対岸遠景、東から撮影

### まとめ

試掘調査を実施した２箇所からは、遺構及び遺物の出土は認められなかった。なお、遺物発見届けは表土層から摩滅した近世陶磁器や時期不明土器が出土したため長崎県教育委員会へ通知済である。

【調査担当：村川・川畑】（文責：村川）

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふりがな | ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうさねんぽう 24 |
| 書　名 | 長崎県埋蔵文化財調査調査年報 24 |
| 副書名 | 平成 27 年度調査分 |
| 巻 次 | 24 |
| シリーズ名 | 長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第 19 集 |
| 編集機関 | 長崎県埋蔵文化財センター |
| 所在地 | 〒 811-5322　長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀触 515-1　TEL0920（45）4080 |
| 発行年月日 | 2017 年 3 月 31 日 |

| 所収遺跡名 | 所在地 | 遺跡コード | | 調査期間 | 調査面積 ㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 市町 | 遺跡番号 | | | |
| 下羽付遺跡 | 佐世保市 | 42202 | 430 | 20150629 ～ 20150814 | 742.0 | 道路 |
| 鷹島海底遺跡 | 松浦市 | 42208 | 162 | 20150801 ～ 20150812 | 10,000.0 | 保存（潜水分布調査） |
| 諫早家御屋敷跡 | 諫早市 | 42204 | 109 | 20150824 ～ 20150828 | 15.0 | 学校建設 |
| 諫早農業高校遺跡 | 諫早市 | 42204 | 062 | 20151026 ～ 20151030 | 10.0 | 学校建設 |
| 原の辻遺跡 | 壱岐市 | 42210 | 424 | 20151102 ～ 20151228 | 350.0 | 保存 |
| 井樋堤塘跡 | 諫早市 | 42204 | 176 | 20151116 ～ 20160210 | 3,300.0 | 河川 |
| 諫早家御屋敷跡 | 諫早市 | 42204 | 109 | 20160222 ～ 20160318 | 120.0 | 学校建設 |
| 竹松遺跡 | 大村市 | 42205 | 086 | 20150526 ～ 20160120 | 4,400.0 | 鉄道 |
| 竹松遺跡 | 大村市 | 42205 | 086 | 20160615 ～ 20151214 | 2,800.0 | 鉄道 |
| 竹松遺跡 | 大村市 | 42205 | 086 | 20150601 ～ 20150616 | 40.0 | 鉄道 |
| 竹松遺跡 | 大村市 | 42205 | 086 | 20150528 ～ 20160218 | 5,480.0 | 道路 |
| 竹松遺跡 | 大村市 | 42205 | 086 | 20150805 ～ 20160219 | 2,180.0 | 鉄道 |
| 竹松遺跡 | 大村市 | 42205 | 086 | 20151113 ～ 20151202 | 117.0 | 道路 |
| 長崎市東町 56km 地点遺跡（仮称） | 長崎市 | 42201 | 未登載 | 20150629 ～ 20150703 | 4.0 | 鉄道 |
| 黒丸遺跡 | 大村市 | 42205 | 085 | 20150806 ～ 20160127 | 1,813.0 | 学校建設 |
| （仮称）平山遺跡（一里松遺跡） | 諫早市 | 42204 | 248 | 20150901 ～ 20150914 | 40.0 | 鉄道 |
| 三城城下跡 | 大村市 | 42205 | 199 | 20151104 ～ 20151112 | 60.0 | 鉄道 |
| 上三反田遺跡 | 諫早市 | 42204 | 247 | 20160112 ～ 29160226 | 275.0 | 鉄道 |
| （仮称）平山遺跡対岸 | 諫早市 | 42204 | 未登載 | 20160215 ～ 20160222 | 8.0 | 鉄道 |

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書　第 19 集

長崎県埋蔵文化財調査年報２４
［平成２７年度調査分］

2017 年 3 月 31 日

発 行　長崎県教育委員会
長崎市江戸町 2 番 13 号

印 刷 鴻文社印刷所
長崎県壱岐市郷ノ浦町本村触 572-7